

IR-DAY 2026

2026年5月29日

株式会社UACJ

東証プライム
証券コード

5741

UACJ

Aluminum lightens the world
アルミでかなえる、軽やかな世界



本日の プログラム

01 第4次中期経営計画 後半に向けて

田中 信二 代表取締役 社長執行役員

02 事業成長に向けた「稼ぐ力」の強化戦略

橋本 圭造 副社長執行役員 板事業本部長

03 Strengthening Our Competitive Position

Henry Gordinier

UACJ常務執行役員 TAA CEO / President 兼 UNA CEO

04 今後の事業戦略達成に向けた財務戦略

岡田 浩三 取締役 執行役員 財務本部長

第4次中期経営計画 後半に向けて

代表取締役 社長執行役員
田中 信二

UACJ

Aluminum lightens the world
アルミでかなえる、軽やかな世界

UACJグループが目指す「軽やかな世界」

UACJグループ理念



企業理念(パーパス)

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

目指す姿(ビジョン)

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

価値観(バリュー)

行動指針「UACJウェイ」

相互の理解と尊重

- 地域社会との交流を大切にし、貢献する。
- 人の多様性を認め、価値観を尊重する。
- オープンなコミュニケーションを実践し、チームと個人の成長を大切にする。
- 「イキイキとした職場づくり」を推進する。

誠実さと未来志向

- 5ゲン主義に基づき行動する。
- 現実に真摯に向き合い、物事の本質を捉えた「誠実なモノづくり」を通じて、ステークホルダー目線の期待に応える。
- 「未来志向」で時代を先取りし、地球環境を守る活動に積極的に取り組む。

好奇心と挑戦心

- 環境の変化に対して常に「好奇心」と「挑戦心」を持ち、社会が必要とする製品とサービスを提供する。
- 社会の将来に向けたオープンイノベーションに対して、創造力を持って取り組む。

行動指針「UACJウェイ」



第4次中期経営計画前半(2024~25年度) : 総括と成果

当初想定していなかった大きな環境変化へ対応 持続的な成長に向け、戦略投資の種まきを進めた2年間と評価

■ 重点方針と前半の評価

1
成長戦略・
付加価値戦略

価値創出拡大による収益の最大化と収益率の向上

- リサイクル推進
- 素材+加工ビジネスの拡大
- 先端分野のサプライチェーン安定化への貢献
- 新領域の拡大



2
事業の強靱化

筋肉質でしなやかな体質の強化

- 環境変化への対応力強化
- 資産効率化
- 自動化・無人化(安全性・生産性向上)



3
基盤の強化

価値創出と安定した事業運営を支える基盤の強化

- 多様な人材の獲得・育成とエンゲージメント向上
- 技術・ブランド等の無形資産の獲得・強化・活用
- デジタルを活用した競争力・組織力の強化
- 事業間・部門間連携やサプライチェーン・バリューチェーンとの連携・協業の更なる推進による提案力の強化



UACJとしての当たり前の実践と深化

UACJウェイに基づく行動
安全衛生・品質・コンプライアンス・ガバナンス

■ 主要財務目標

	第4次中計 最終年度計画 (億円)	2025年度 実績	2026年度 見通し
売上収益	10,500	11,817	13,000
事業利益	600	482	650
Adjusted EBITDA*1	1,000	883	1,090
ROE	9%以上	12.2%	8.1%
ROIC*2	9%以上	7.1%	9.1%
D/Eレシオ*3	1.0倍未満	1.0倍	1.0倍

*1 Adjusted EBITDA : EBITDA - 棚卸資産影響等

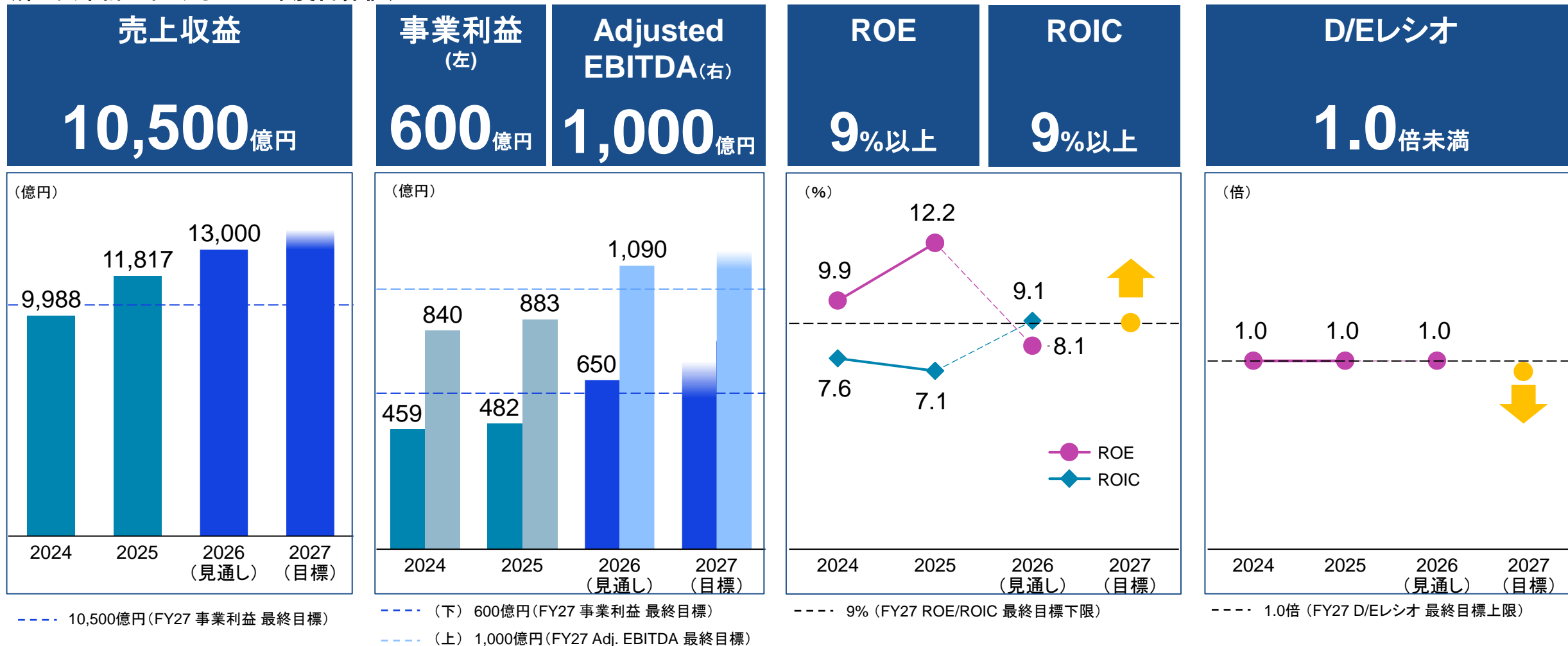
*2 ROIC : 事業利益を基に算出

*3 連結D/Eレシオは、有利子負債のうち借入金・破産を基に算出し、また劣後特約付ローンの資本性を考慮

第4次中期経営計画(2024~27年度) : 財務目標推移

稼ぐ力の底上げによって、さらなる収益の最大化と収益率の向上を目指す

(第4次中計における2027年度目標値)



第4次中期経営計画前半(2024~25年度) : 施策と展開

旺盛な需要を取り込み、収益を拡大

長期的な成長市場の獲得に向けて、設備投資を決定

不透明な外部環境に即応する、施策立案体制をガバナンス監督機能を強化

01.

アルミニウムの 循環型社会構築へ前進

- 日本、タイ、アメリカでのリサイクル設備の投資を実行
 - リサイクル原料の使いこなしによるコストの低減、収益率改善へ
 - 環境価値の経済価値化の拡大

1

成長戦略・
付加価値戦略

02.

第5次中計以降を見据えた 成長投資の決定・実行

- TAAの増産投資の実行
- 航空宇宙・防衛分野、
半導体製造装置向けへの投資決定
 - 市況の変化に応じた投資の効果は第4次中計後半~第5次中計にかけて発現見通し
 - 数量増加で収益を確保

1

成長戦略・
付加価値戦略

03.

事業体制の強靱化と 運営基盤の強化

- 人的資本経営の全体像の整理
- 生産性向上のための生成AI導入
- 社内外エンゲージメントの向上
- ガバナンスの強化

2

事業の強靱化

3

基盤の強化

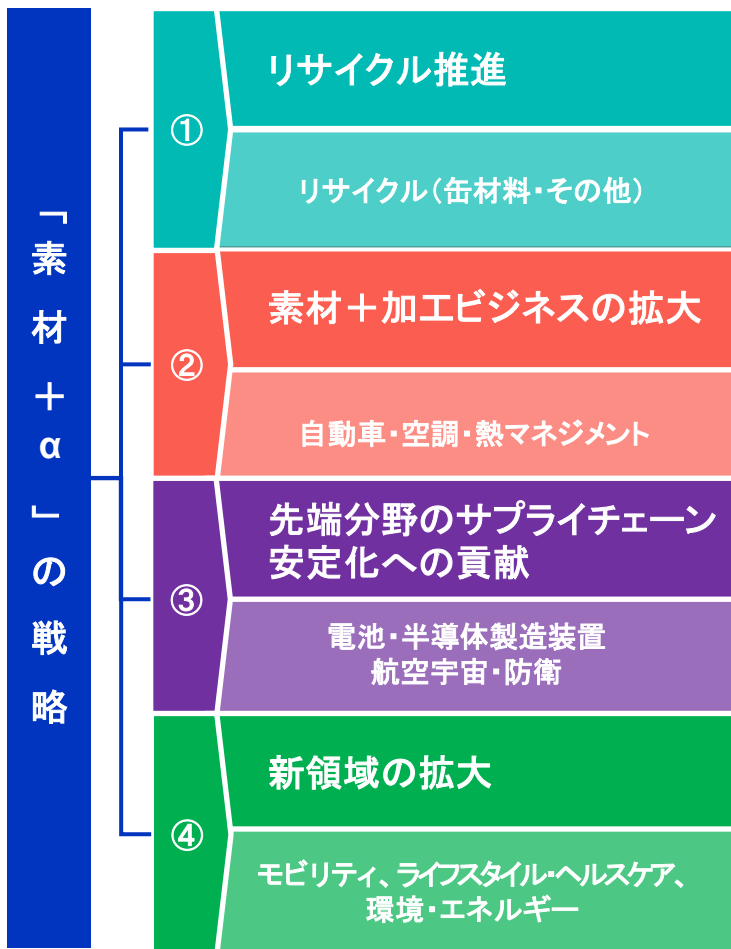
UACJとしての当たり前の実践と深化

成長戦略と付加価値戦略の進捗

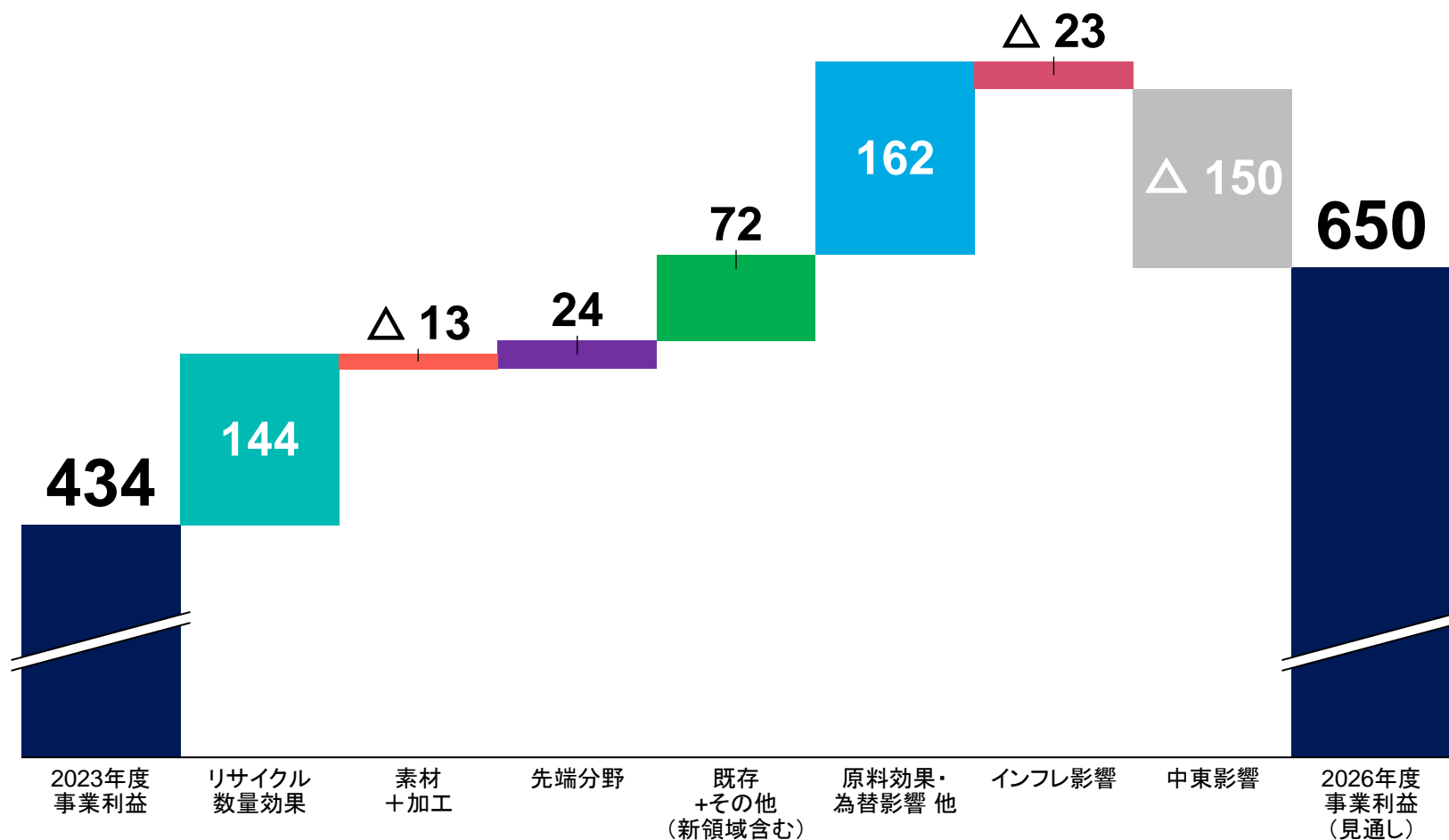
米国関税によるメタル市況の高騰影響を享受

リサイクル投資の効果と価格改定の効果が発現し、収益を大きく押し上げる

第4次中計における“+α”の分野(上段)と
重点活動分野(下段)



事業利益分析
(億円:23年度実績 対 26年度見通し)



第4次中期経営計画後半(2026~27年度)以降に向けて UACJ VISION 2030につながる価値の創出、 また経営体質の強化と株式価値向上を目指して取り組みを加速

環境変化に応じる施策

- 缶材需要のグローバルな拡大に柔軟に対応する生産販売体制の確立
- 米国関税(メタル市況の高騰) ⇒リサイクル設備の稼働で収益取り込み
- 中東の地政学的リスクの見通し織り込み ⇒お客様への安定供給維持
- BEV化減速の戦略反映

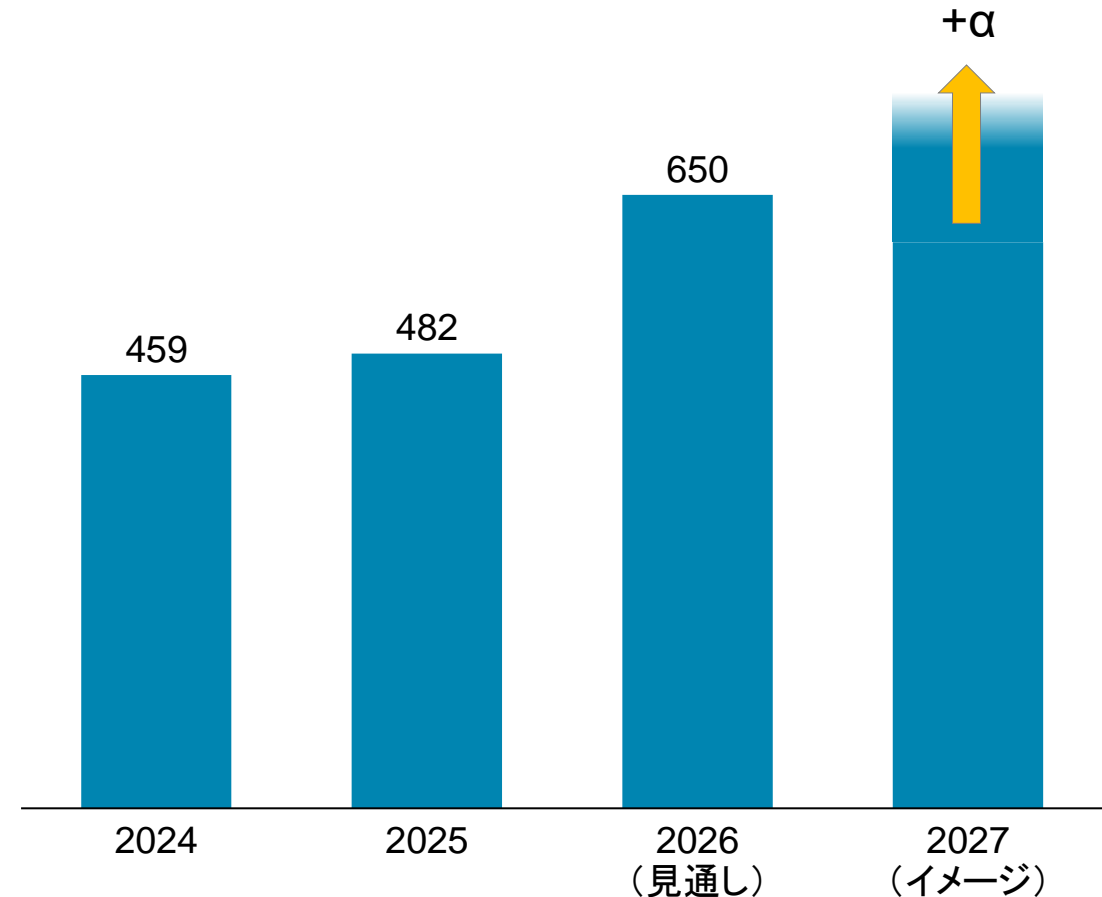
機動的な投資配分

- 底堅い缶材需要や今後拡大する航空宇宙・防衛への投資額を増加
- 自動車部品分野への投資額を抑制

中計後半戦、さらにVISION2030達成に向けて

- FY26はメタル市況の高騰により、利益が一時的に押し上げ
- FY27は過去の投資(増産/リサイクル設備)効果の顕在化で安定した利益を確保
- 配当方針は堅守(第4次中計期間中の配当性向は最終利益の30%以上)
- 成長分野、成長市場への適切な投資配分で、2030年以降の成長の土台を形成

事業利益の推移(億円)



投資配分の見直し

第4次中計の成長戦略に則った投資を実施しながら、外部環境の変化を踏まえた配分の見直しを実施

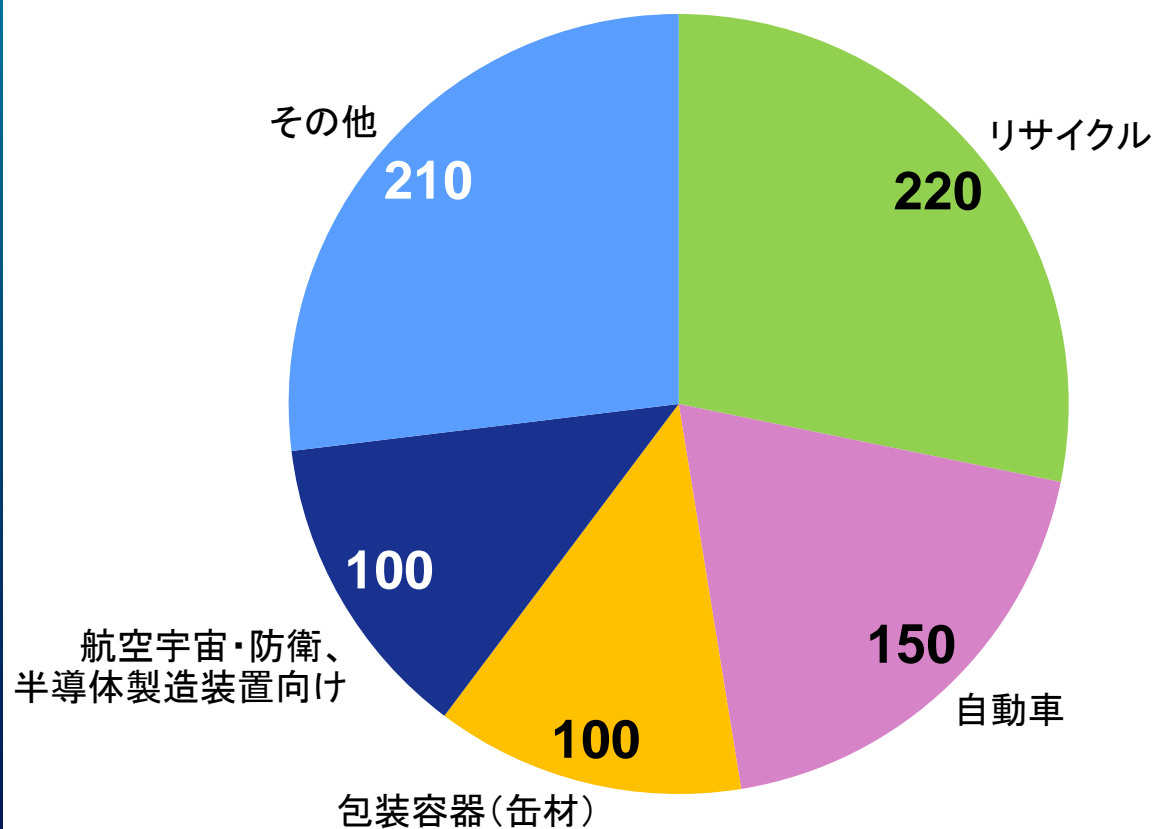
(億円)	当初計画	最新計画	増減	内容
成長投資	780	850	70	外部環境の変化を踏まえて、配分を見直し
一般投資	720	900	180	インフレにより、安全対策・劣化更新、品質向上設備費用が増額に
環境投資	50	50	0	Scope1,2排出量削減対策を計画通り実行
DX投資	50	50	0	生成AI導入、システム改善、自動化の進展による生産性を向上
補助金等	0	△ 200	△ 200	
計	1,600	1,650	50	補助金等差引き前の投資額： 1,850億円

環境変化に対する迅速な投資配分の見直し

北米のBEV化減速を受け、「自動車」向けから、さらなる北米缶材需要拡大の捕捉を目指して「包装容器(缶材)」、また「航空宇宙・防衛材」へ

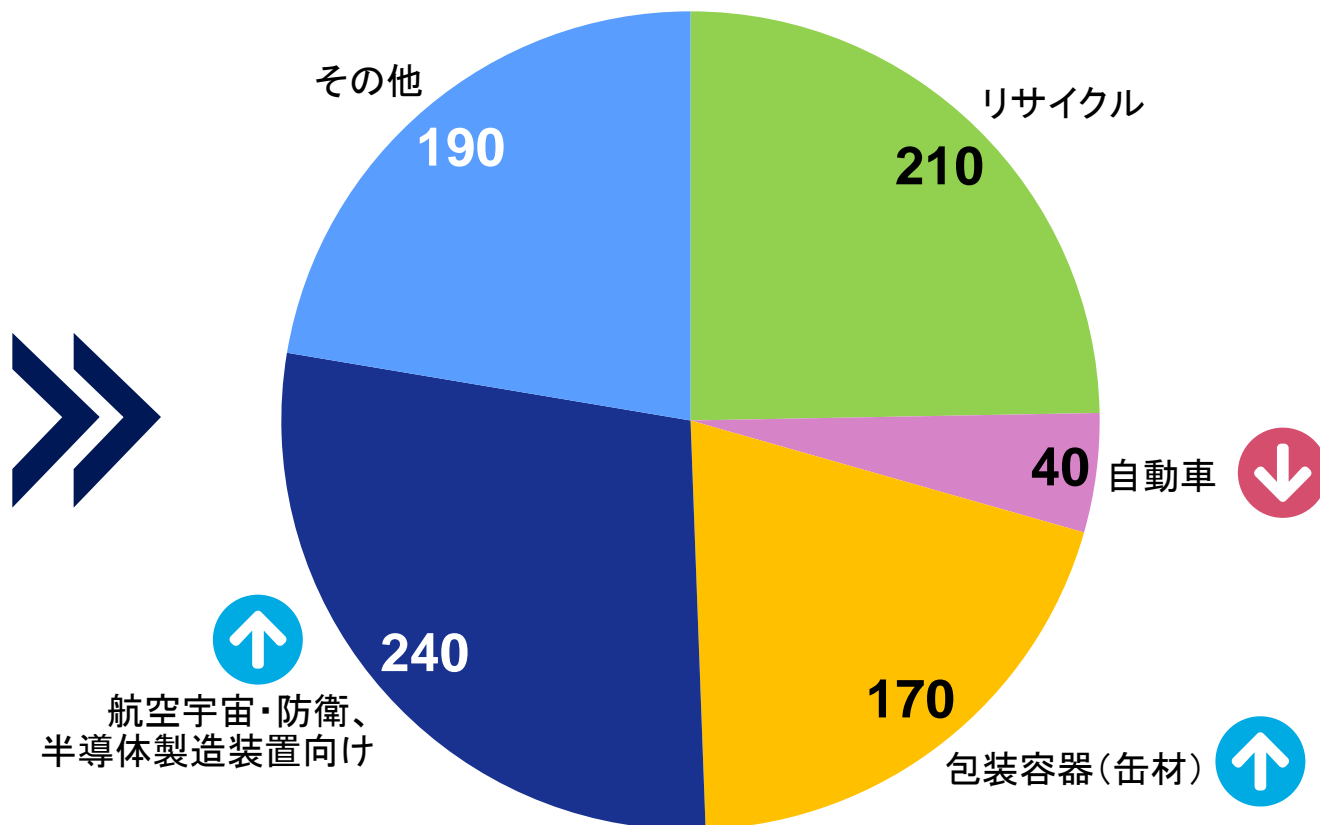
成長投資の内訳
(第4次中計公表時点)

780億円



見直した成長投資内訳
(2025年度終了時点)

850億円



後半に向けた主要施策： 航空宇宙・防衛材事業を、成長の柱へ

VISION2030の戦略に沿った投資を実行

お客様のニーズに確実に応える生産体制で拡大する需要を捕捉

新規投資の決定

- 深谷製造所： 厚板焼入れ材製造設備の増強(2027年度下期稼働予定)
- 鋳鍛製作所： 国内最大リング材製造設備の導入(2029年中稼働予定)

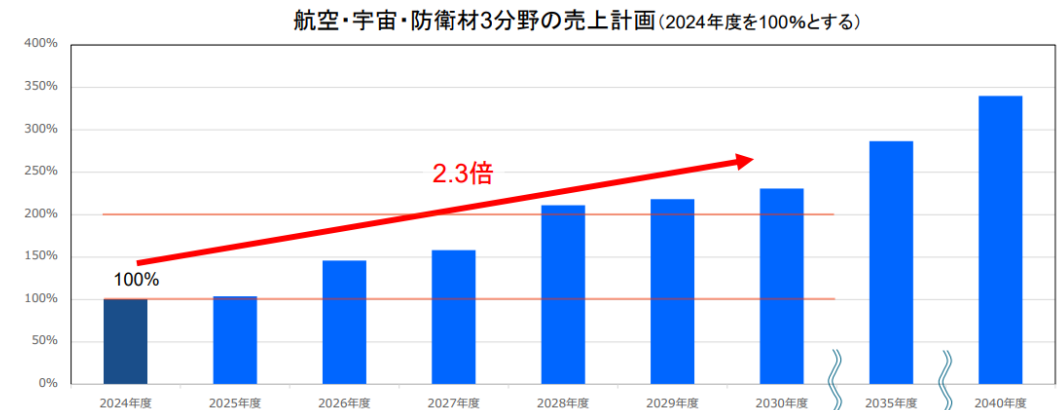


グローバル需要の確保で持続的な事業成長へ

- 航空宇宙・防衛分野の世界的なリーディングカンパニーと戦略的パートナーシップの覚書を締結
- 鍛造品を皮切りに、強みを生かした技術交流を促進

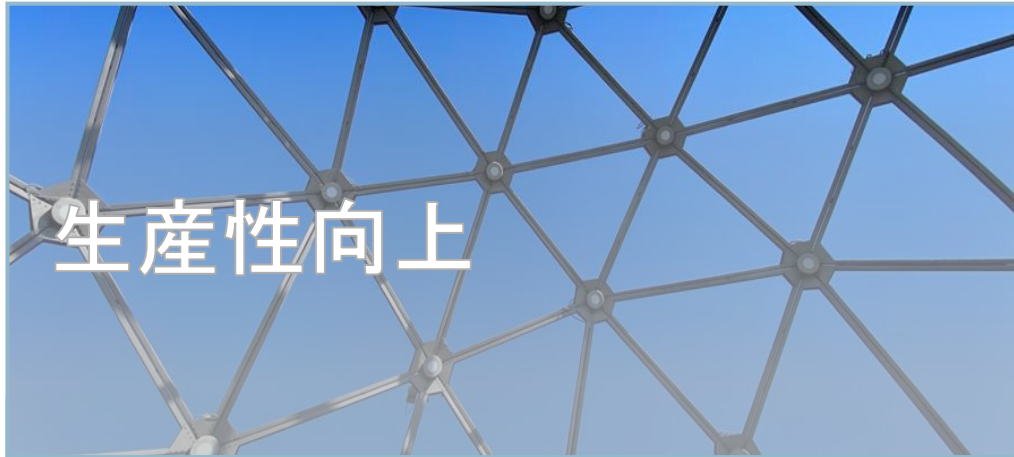
航空宇宙・防衛材事業の売上見通し

- 当社にとって課題であった
 - 【航空宇宙・防衛材用の熱処理設備の能力増強】
 - 【さらなる大型鍛造品の製造能力増強】
 の解消へ前進
- 次世代の航空宇宙・防衛分野の軽量化および脱炭素化に向け、最適なアルミ合金の選定とプロセス開発に取り組む



事業を支えるコーポレート基盤の強化

組織体制の柔軟性を加速させ、重視すべき分野への機動力を高める



ビジネスプロセスDX推進本部の新設

強靱なIT基盤を構築しつつ、最新デジタル技術の活用を促進し、全社の生産性向上を牽引

🚩 今後の取り組み

- システムの統合的な利活用環境の整備
- 生成AIの全社的な利活用促進と定着
- 直接部門業務のプロセス変革
- 間接部門業務の効率化を加速



コーポレートコミュニケーション本部の新設

社内外のコミュニケーションを強化し、企業価値の向上・最大化を目指す

🚩 今後の取り組み

- 戦略的な情報開示による企業価値への貢献
- ステークホルダーに応じた対話の継続によるUACJ理解の深化
- 理念・UACJウェイの浸透に向けた社内コミュニケーションの積極化

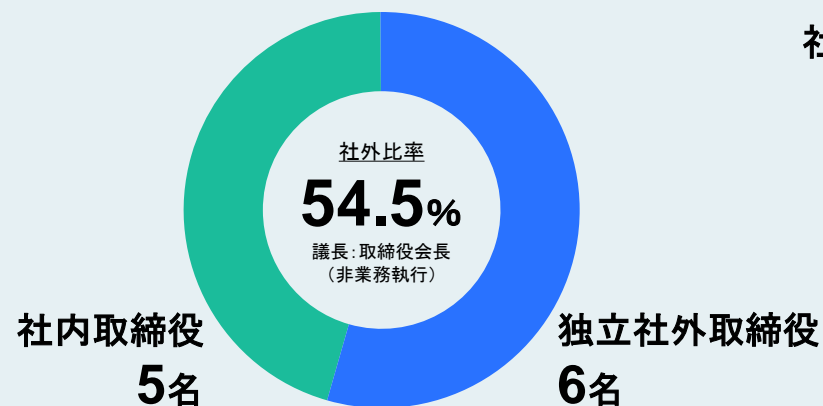
持続的な企業価値向上に向けたコーポレート・ガバナンスの進化

独立社外取締役比率の向上により、経営に対する監督機能を強化

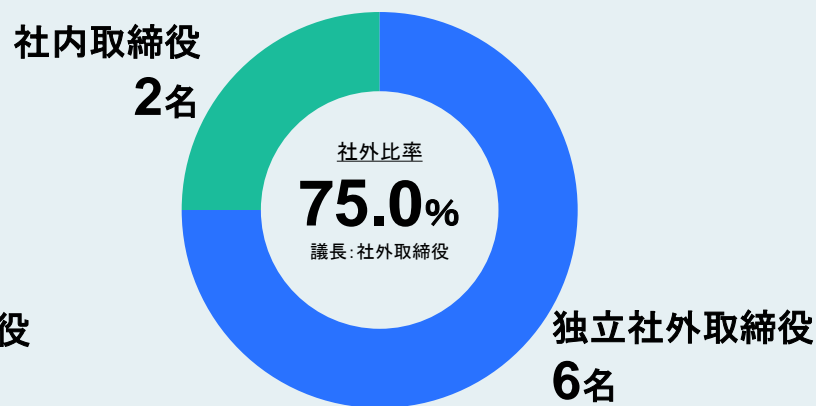
多様な視点・スキルを結集し、第4次中期経営計画の達成を後押し

第13期定時株主総会後の役員構成(予定)

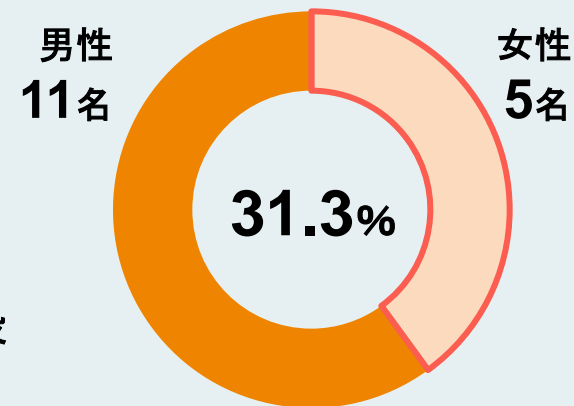
取締役会の構成
(計11名)



指名・報酬諮問委員会の構成
(計8名)

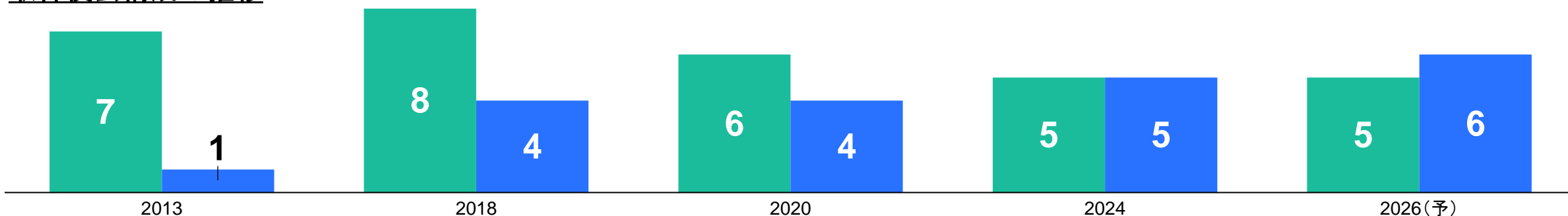


役員女性の比率
(取締役・監査役 計16名)



取締役会構成の推移

■ 社内取締役 ■ 独立社外取締役



持続可能で豊かな社会の実現に貢献するために

変わりゆく世界

UACJを取り巻く市場環境

世界の多極化、緊張関係の高まり

不透明な経済動向
エネルギー不足
物価の高騰

気候変動
大規模災害の発生

資源の枯渇可能性

サステナビリティ等
関連法規制の強化

「素材+α」による事業機会

UACJ

アルミニウムの
利活用機会をさらに広げ
確かな「稼ぐ力」へ繋ぐ

環境意識(欧米)、人口増(新興国)で
飲料缶の需要拡大

高品質な製品サービスの国産化ニーズで
航空宇宙防衛関連の需要拡大

半導体関連の需要増による
設備投資が活性化

データセンターをはじめとする
熱マネジメント分野の活況

新たな領域でのニーズの模索と
価値の創出

UACJグループのサステナビリティ ～軽やかな世界へ導く羅針盤～

100年後の軽やかな世界のために

私たちの毎日の暮らしを支える素材、アルミニウム。
自由にカタチを変え、無限の可能性を持つ素材。
同じものとして、何度でも生まれ変わることができる
この特徴は、アルミニウムならではの。
言わば「サステナブル(持続可能)な素材」です。

そんなアルミニウムの持つ力を
技と術で引き出してきたUACJだからできること。

それは、美しく豊かな地球がずっと続く未来が実現できるよう、
これまで受け継いできた叡智と情熱を胸に
地球環境が抱えるさまざまな課題と向き合い
環境に配慮した事業を営んでいくこと。

さらに、誰もが幸せを感じられる健やかで調和のとれた社会が実現するよう、
あらゆる人々の多様性を尊重し地域社会との共生・共創を通して、
ステークホルダーの皆さまとともに社員一人ひとりが、考え、行動すること。

アルミとあしたへ。
未来の子どもたちに、美しい地球を。サステナブルな社会を。
それがUACJの考える「軽やかな世界」です。



UACJピープルステートメントと人的資本経営の全体像

人を育み、人を繋いで、 軽やかな未来を創る

UACJグループの人的資本についての考え方

UACJグループの未来を創る源泉。

それは、UACJグループ理念に共鳴して働く
わたしたち一人ひとりにほかなりません。

UACJグループの持続的な成長と、

軽やかな世界の実現のために、

まず、働くわたしたちの「Well」を高めること。

その「Well」を、繋ぎ、広げること。

誰もがイキイキと輝き、

成長を共に喜びあえる最高のチームとなること。

そんな、UACJグループの「人づくり」「組織づくり」と

それを支える「働く環境づくり」を

進めていきます。

共に育みあい、繋がりながら、

軽やかな未来を、みんなで一体となって

実現していきましょう。

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する

働く一人ひとりの
Well-being 向上

人を育み、人を繋いで、軽やかな未来を創る

人材力・組織力の向上

わたしたちの働くWell

多様な仲間と出会い、繋がり、成長を喜びあい
チーム一丸となって目標を達成する感動

組織づくり

多様な一人ひとりの活躍の掛け合わせによる
グループの持続的な成長を支える組織づくり

わたしの働くWell

個人としての成長・成果を認められる喜びと
仕事を通じて社会に貢献しているという誇り

人づくり

持続的な成長を支える多様な人材の獲得・育成と
一人ひとりの活躍をひきだす人材マネジメント

わたしの心と体のWell

安全・安心で健康的な毎日を通せる
幸せと、仕事とプライベートの調和による
毎日の充実感

働く環境づくり

安全・安心で健康的な働きやすい
職場環境づくり



UACJグループの成長を支える、働く一人ひとりのWellと人材・組織づくりの好循環

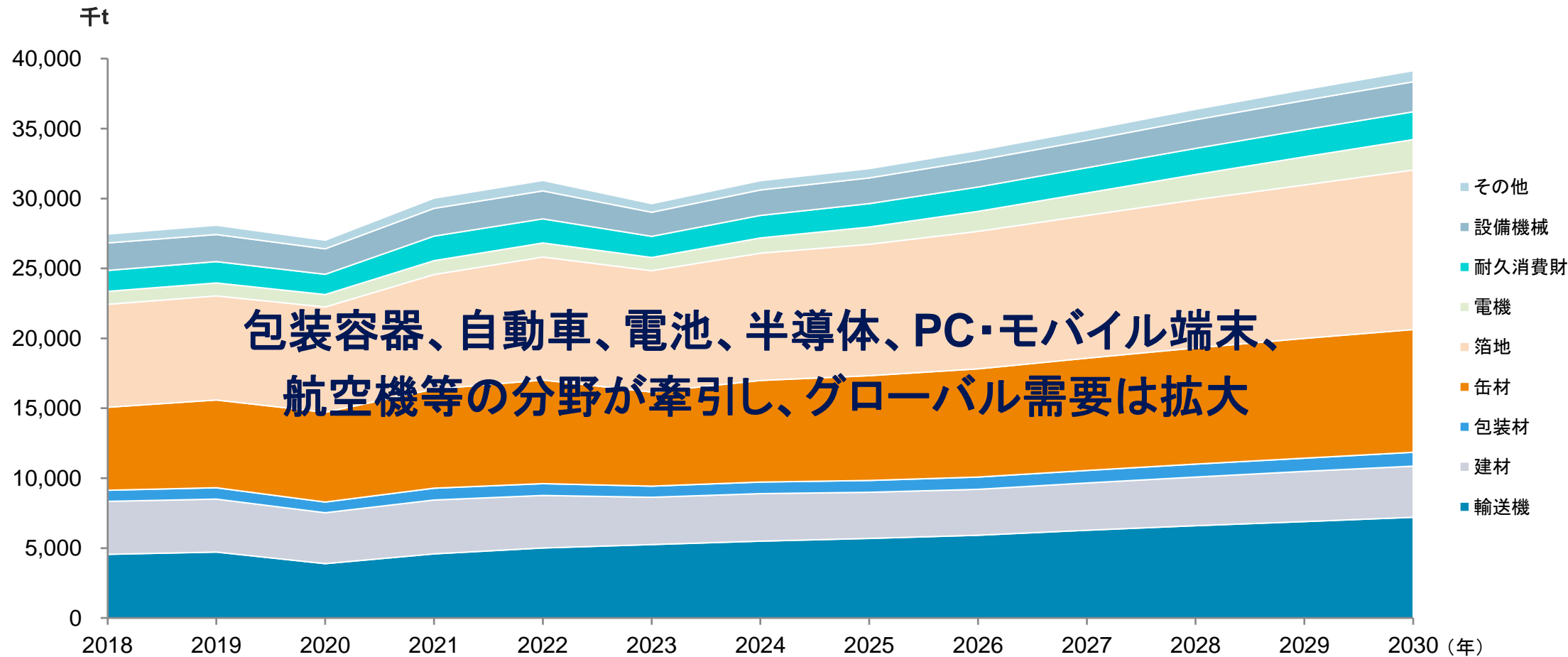
事業成長に向けた 「稼ぐ力」の強化戦略

副社長執行役員 板事業本部長
橋本 圭造

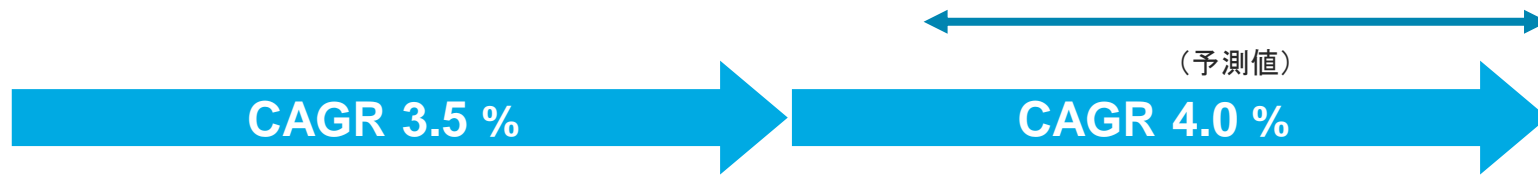
UACJ

Aluminum lightens the world
アルミでかなえる、軽やかな世界

1 | アルミニウム圧延材 グローバル需要拡大 各分野において需要は拡大する中、事業成長を目指す

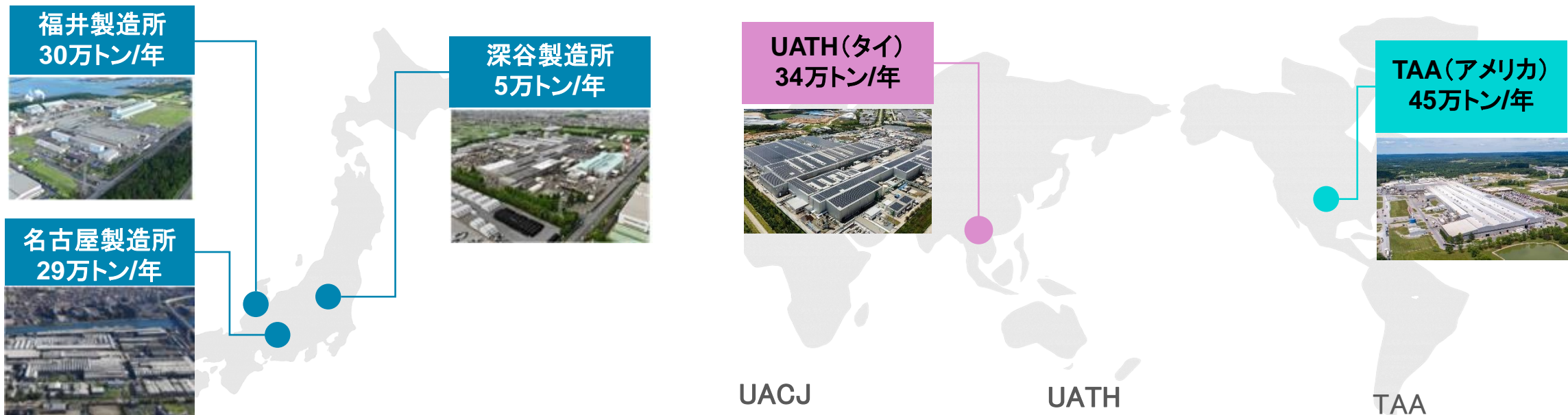


出典：当社調べ(2026年2月時点)

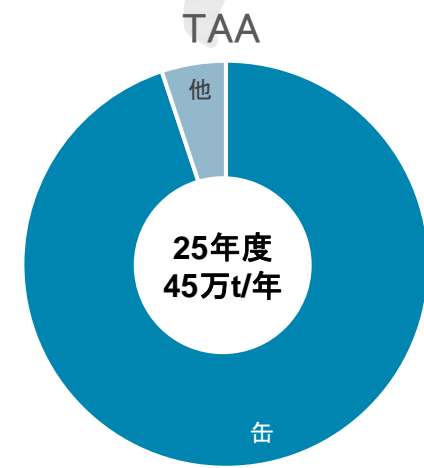
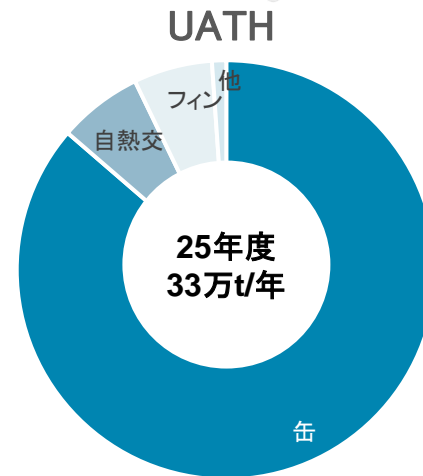
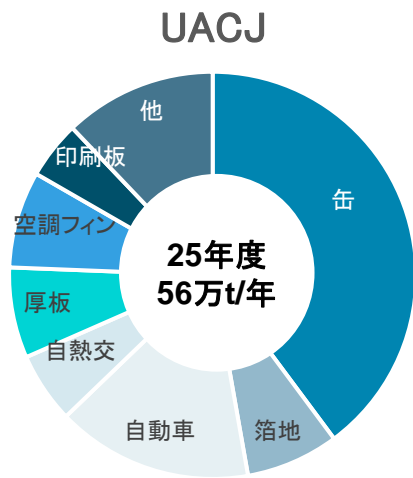
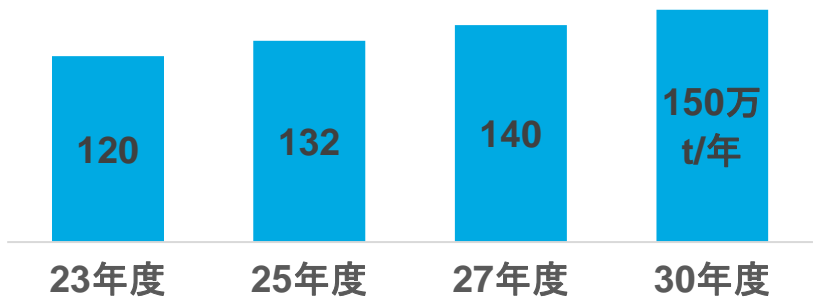


2 板事業の主な生産体制

3極体制で拡大するグローバル需要を捕捉し、収益性を向上

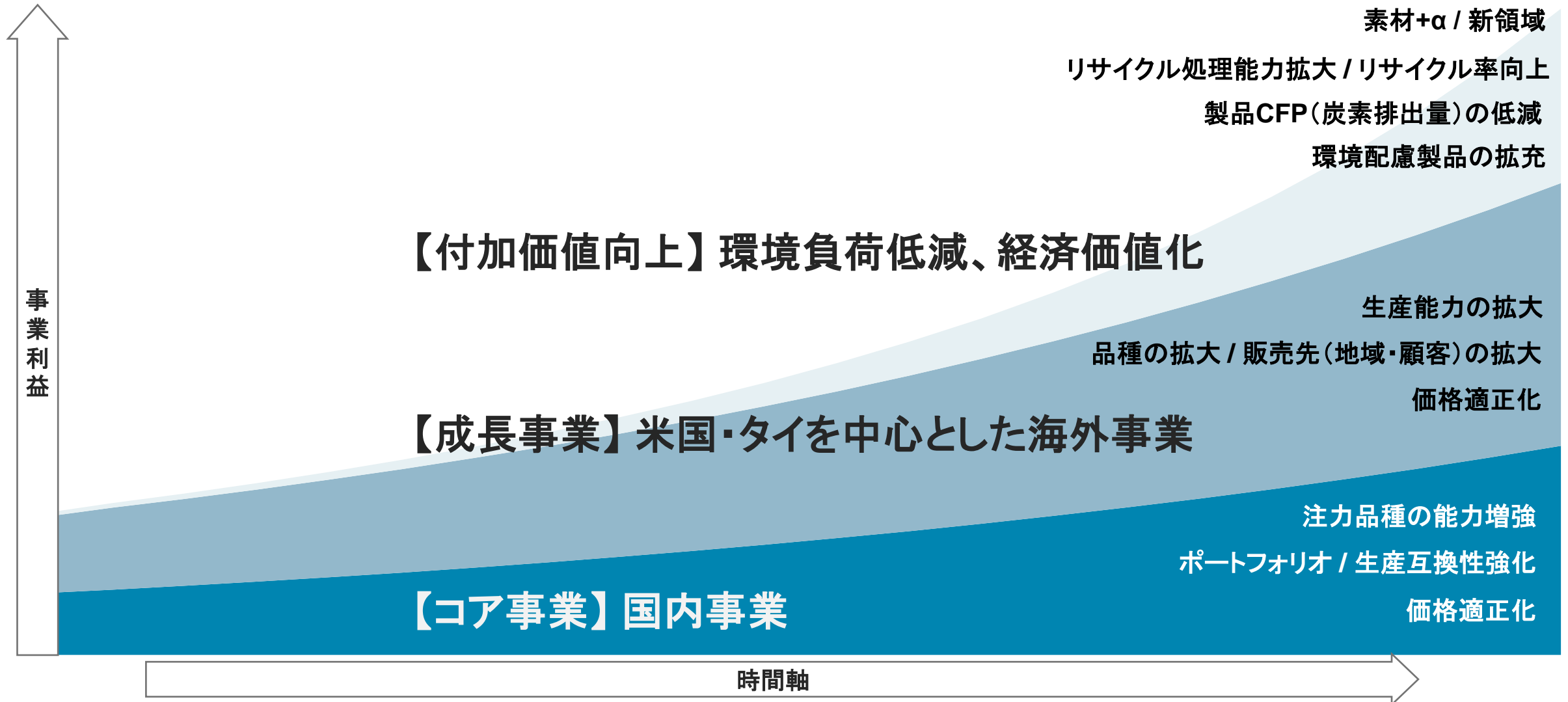


3極の販売量推移



3 板事業の成長戦略

拡大する需要と環境負荷低減で事業成長を図る



3 | 世界No.1の総合アルミ板事業のイメージ

研究・商品開発力と環境負荷低減で、付加価値創出し、事業成長を図る

UACJの現在地(2025年度)

- アルミ板製品シェア
国内 約 54 %
世界(中国除く) 約 10 %
- 缶材シェア
国内 約 57 %
世界(中国除く) 約 20 %
* 当社調べ
- Adjusted EBITDA
25年度実績 883 億円
27年度目標 1,000 億円

ありたい姿 世界No.1の総合アルミ板事業



拡大するアルミ需要

3 | 第4次中計・基本方針の進捗

1. 量から質への転換

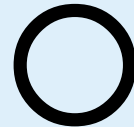
- 収益性、資産効率性の向上
- 重点分野の需要増減に柔軟対応できる生産体制



- **需要環境変化に応じた販売ポートフォリオ最適化** (電池需要の伸び鈍化を受け、他分野で増販)
- 欧州(ドイツ)に新会社設立、営業・技術サービスを強化
- **深谷に厚板焼入れ材製造設備導入** (27年度下期に稼働開始)

2. モノからコトへの転換

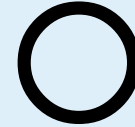
- 環境課題解決するソリューション提供
- CO₂排出量削減、水平リサイクル推進
- ALmitas+ SMARTの拡販



- **再生原料の処理・溶解能力向上** (UATH、日本、TAAにおける設備投資)
- 缶材の域内クローズドループ構築中
- **ALmitas+ SMART拡販中**

3. 3極体制の進化

- 3極連携による顧客対応力強化
- 日本とUATHの二極互換性を拡大



- **日本とUATHで互換性を強化中** (スラブ、缶材、熱交材、フィン材)
- UATHで新たな品種(箔地)量産準備中
- **TAA(46万t)、UATH(34万t)で生産能力増強中**

3 | 成長分野への国内設備投資

川上領域のリサイクル強化・合理化により長期的・安定的な収益を確保
そして、伸長する半導体製造装置材、航空宇宙・防衛材の需要を取り込む

UBC溶解リサイクルシステムの導入

(福井製造所)

- ・投資額は約52億円
- ・国内クローズドグループ確立

リサイクル①

最新鋭鑄造システムの導入

(小山製作所)

- ・ビレット鑄造拠点の集約
- ・最先端の鑄造技術による高品質化

リサイクル②

厚板焼入れ材製造設備の導入

(深谷製造所)

- ・投資額は約110億円
- ・国内初のローラーハース式焼入れ炉導入

能力拡大③

国内最大級リング材製造設備の導入

(鑄鍛製作所)

- ・投資額は約120億円
- ・国内最大規模かつ高効率な生産設備

能力拡大④

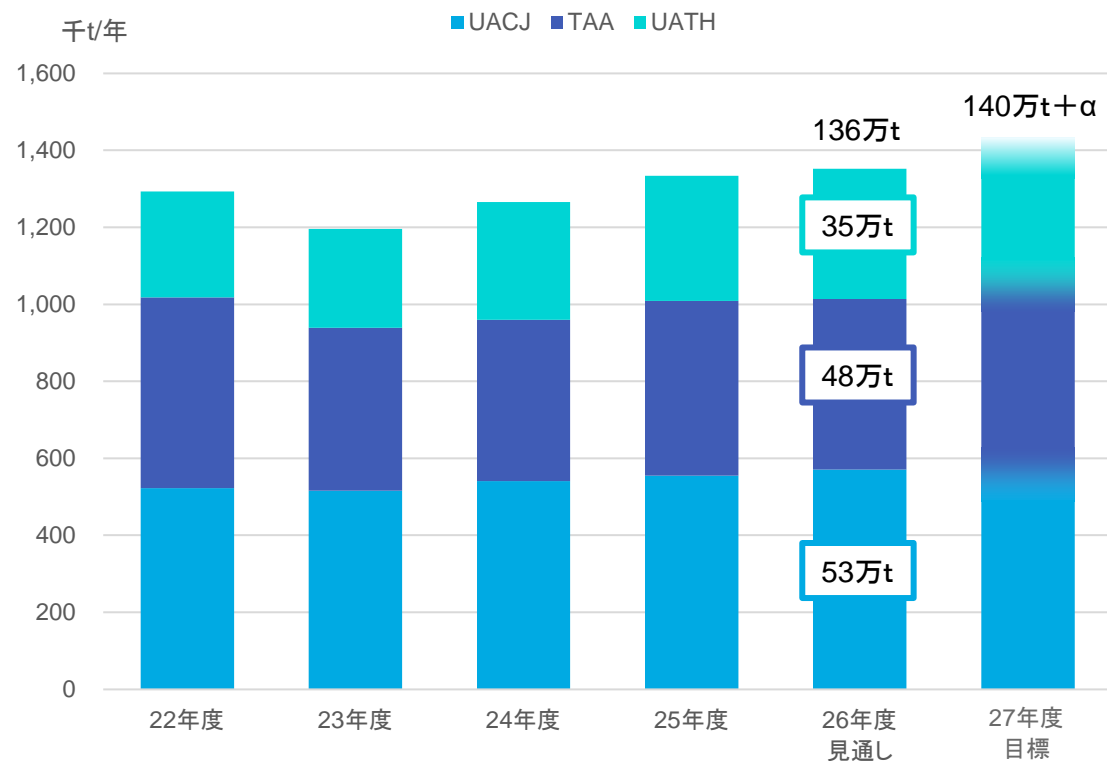
稼働開始スケジュール

2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
	① 26年1月 UBC溶解 リサイクル システム	② 26年5月 最新鋭 鑄造 システム	③ 27年度下期 厚板 焼入れ材 製造設備	④ 29年中 国内最大級 リング材 製造設備	

4 板事業の販売量と事業利益の推移

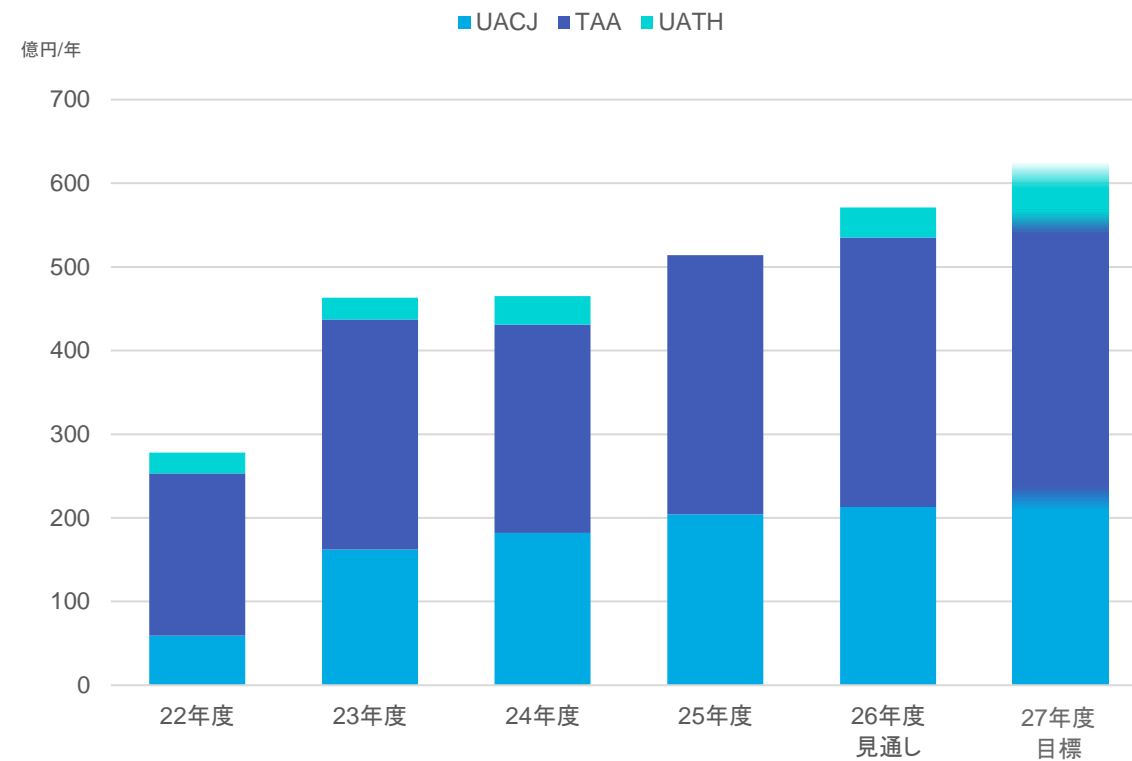
堅調な需要を背景に、板事業3極の販売量・事業利益を拡大させる

3極の販売量推移



2027年度 140万 t +α

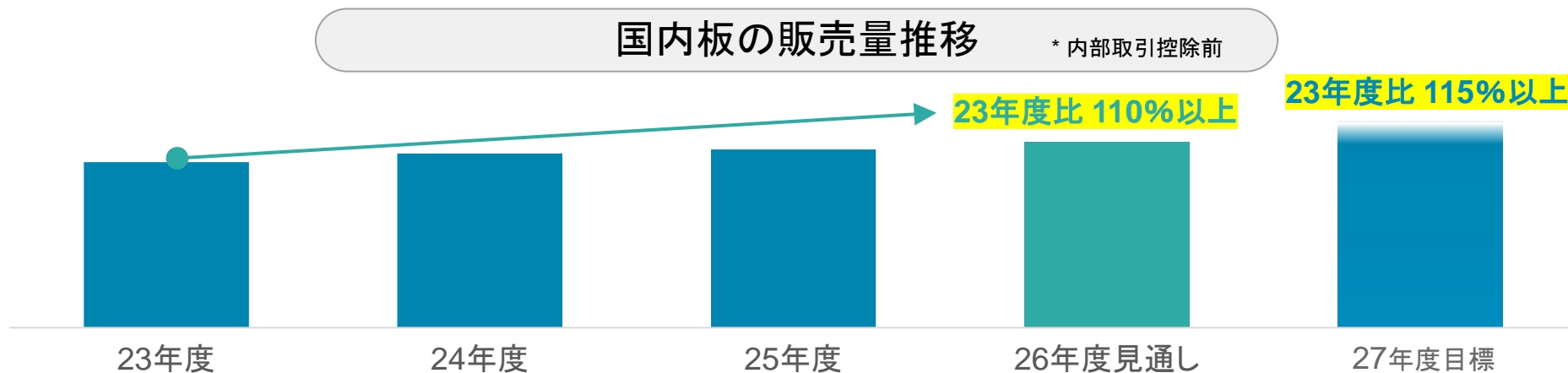
3極の事業利益推移



2027年度 600億円+α (板事業全体)

4 | 国内板の収益性強化

幅広い製品ラインナップで、柔軟に堅調な需要を取り込み、環境対応も推進していく



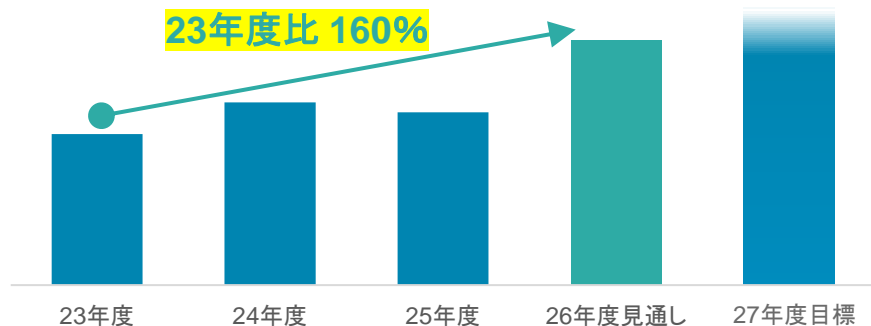
	2026年度の需要動向		足元の環境対応ニーズ	
国内向け缶材	→	市場は横ばい～微減の見込み	◎	リサイクル率向上、CFP削減推進
欧州向け缶材	↗	ガラス瓶からの置き換え需要等あり、市場は成長が続く	◎	ASI認証材、リサイクル率向上、CFP削減推進
自動車材	→	国内生産台数減少と北米向け増販の影響が相殺	◎	グリーン新地金、リサイクル率向上推進
電池箔・電池ケース	→	ESS(定置型蓄電池)市場は拡大、車載市場の伸びは鈍化	◎	グリーン新地金、リサイクル率向上推進
パソコン・モバイル端末	↗	一部でアルミ押出材よりアルミ板材への切り替えの動きあり	◎	リサイクル率向上推進
厚板	↗	生成AI普及を背景として、半導体製造装置市場は好調	○	ALmitas+FusPlate SMART販売開始
メモリーディスク	↗	生成AI普及を背景として、データセンター投資が継続、HDD需要増	○	リサイクル率向上推進
建材	→	市場は横ばい～微減の見込み	○	ALmitas+SMART汎用薄板販売開始
航空宇宙・防衛	↗	航空旅客需要回復、宇宙市場拡大、防衛予算増額を受け、市場拡大	○	航空機関連企業と水平リサイクル協議中

4 | 国内板の収益性強化

製品ラインナップ、環境対応、海外ネットワークを活かし、販売量を拡大し、収益性を強化

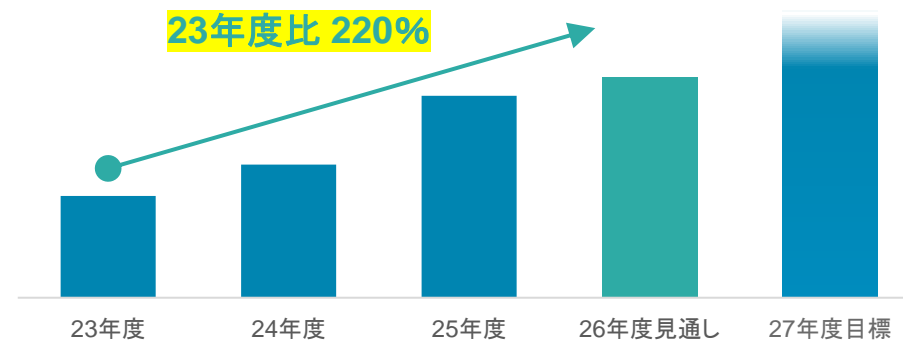
厚板・焼入れ材

好調な半導体製造装置需要を取り込み、販売量を拡大



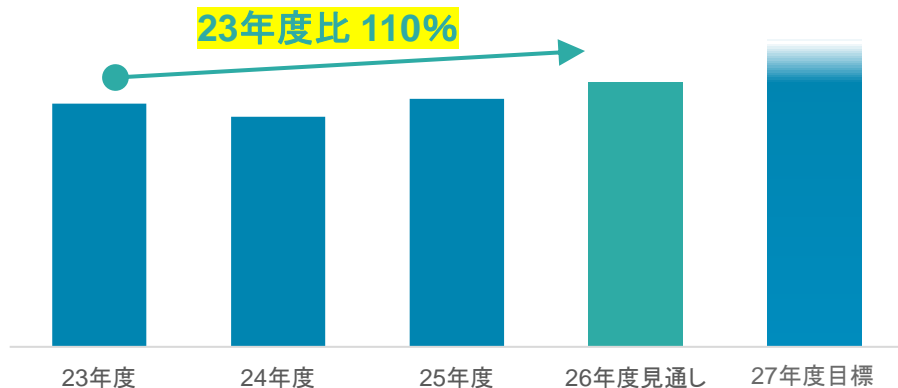
パソコン/モバイル端末

各種パソコン/モバイル端末の新モデルにおける当社材採用拡大



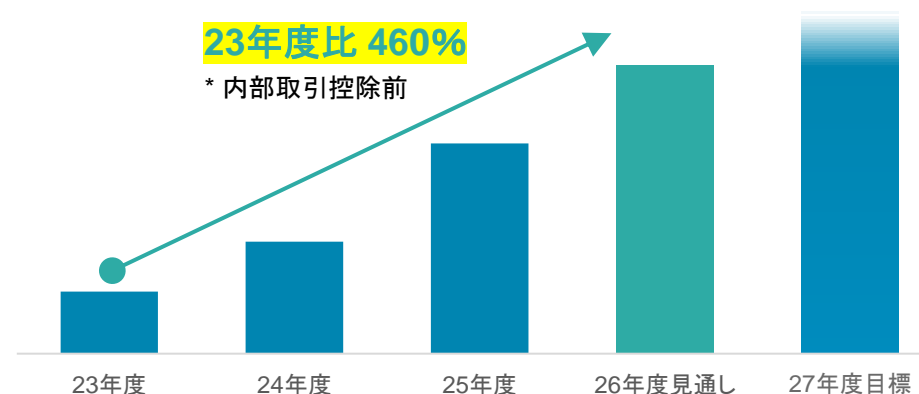
電池箔・電池ケース

好調なESS(定置型蓄電池)需要を取り込み、販売量を拡大



輸出缶材

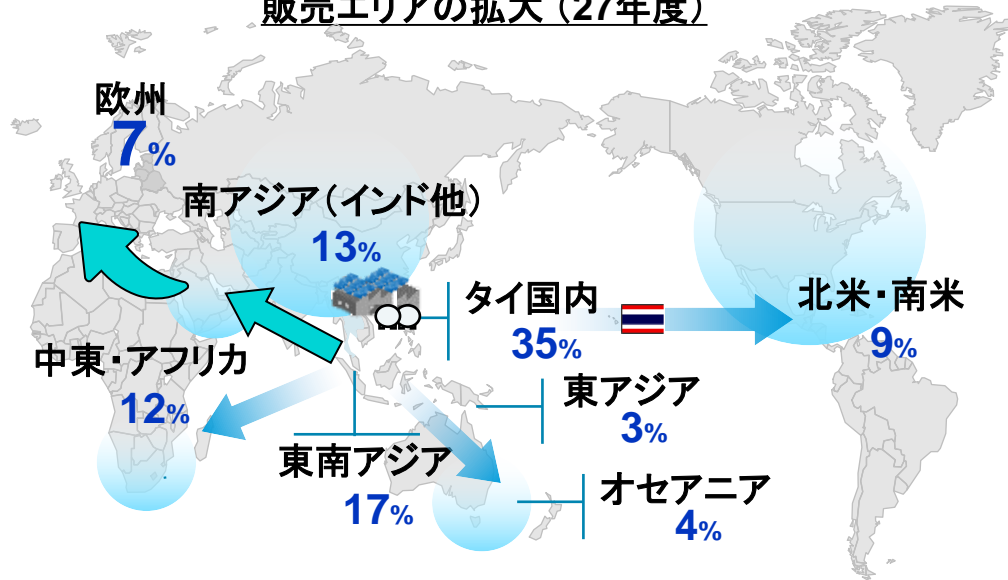
グローバルネットワークを活かし、成長続く欧州缶材需要を捕捉



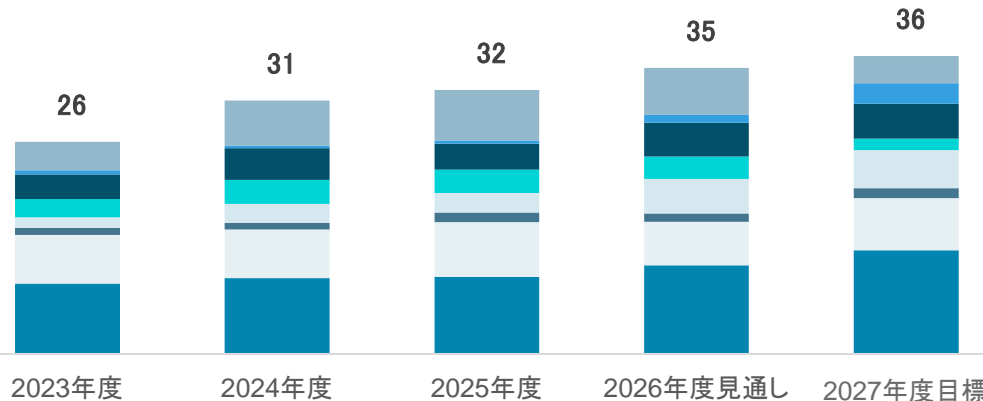
5 UATHの収益性強化

人口増加と経済成長にともなう飲料消費増加を背景に、需要は拡大傾向

販売エリアの拡大 (27年度)



UATH販売数量推移(万t)



市場環境

- 缶材のグローバルでの需要は拡大していく見通しで、特に欧州・アメリカは需給がタイト、且つアジアの需要も底堅い
- 中国メーカーもコストアップに伴い価格転嫁を進行している

生産・販売の状況と収益改善の施策

- 2025年度の缶材生産量は過去最高記録を達成、また販売数量は前年同期比+5%
- 一部、中東向けの出荷があるも、割合は小さく影響は低い
- UBC調達ルート of 拡大により、生産コストの最適バランスを構築
- 旺盛なインド需要の取り込み等、生産・販売数量の拡大を図る
- 安定した品質・納期による差別化で価格改定を継続
- 欧州向け缶材出荷の開始により、販売ポートフォリオの改善を目指す

6 「素材+α」の環境価値の創出

環境負荷の低減で生み出された環境価値の経済価値化を推進中

環境負荷の低減

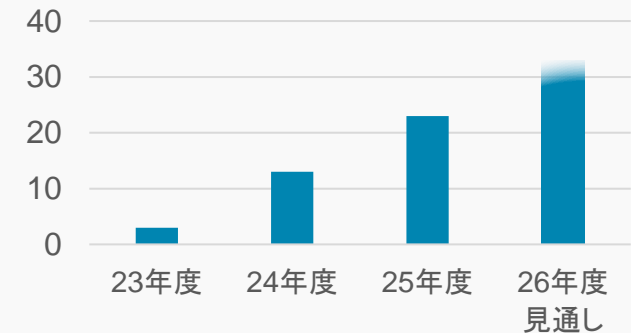
- グリーン原料の調達
 - ✓ 再生原料
 - ✓ グリーン新地金
- **リサイクル関連の設備投資**
 - ✓ 福井: UBC溶解リサイクルシステム導入
 - ✓ TAA: シュレッダーライン増設
 - ✓ UATH: スクラップ溶解炉増設
 - ✓ 小山: 最新鋭鋳造システム導入
- **再生原料活用する合金開発**
- **再生可能エネルギーの調達**



環境価値の経済価値化

- **環境配慮型製品の拡充**
- 環境価値の見える化
- 第三者認証の取得
- **環境価値の訴求**

ALmitas+件数の累計



ALmitas⁺

アルミの価値、当社の技術をもってお客様の課題を解決する8つのソリューション

審美性・意匠性

軽量性

独自性・機能性

加工性

効率性

環境性・循環性

耐久性

共創性

6 環境負荷の低減に関するリリース一覧

リリース年月	分野	内容
2022年	3月	- Aluminium Stewardship Initiativeの認証を取得
	8月	缶 世界初の100%リサイクル缶を、サントリー・東洋製罐GHDと共同で製造
2023年	4月	自動車 グリーン原料を用いたアルミ板材「UACJ SMARTマスバランス」の提供を開始
	10月	建材 UACJの100%リサイクル材を使用したアルミ棚天板を「無印良品 新宿靖国通り」に納入
	12月	缶 飲料缶蓋「EcoEnd™」を東洋製罐と共同開発
2024年	3月	缶 住友不動産、東洋製罐と「アルミ缶水平リサイクル」のサプライチェーンを構築
	4月	建材 環境配慮型アルミ材「ALmitas+ SMART」が積水樹脂プラメタルのアートパネルに採用
	4月	厚板 日本初、再生原料を100%利用の厚板「ALmitas+ FusPlate SMART」を発売
2025年	6月	機能材 環境配慮型アルミ材「ALmitas+ SMART」のをサステナブルファッションブランド「ECOALF」に納入
	6月	機能材 東海道新幹線再生アルミを使用したボールペンを共同開発
	9月	機能材 日本初、グリーン新地金100%のアルミ汎用薄板を発売
	9月	空調 空調機用熱交換器のアルミフィン水平リサイクル技術を実証
	12月	押出材 業界初、スキー場で回収した使用済みスキーポールの水平リサイクル実証実験を開始
2026年	4月	押出材 グリーン新地金100%のアルミ押出丸棒を発売、製品ブランド「ALmitas+ SMART」に追加

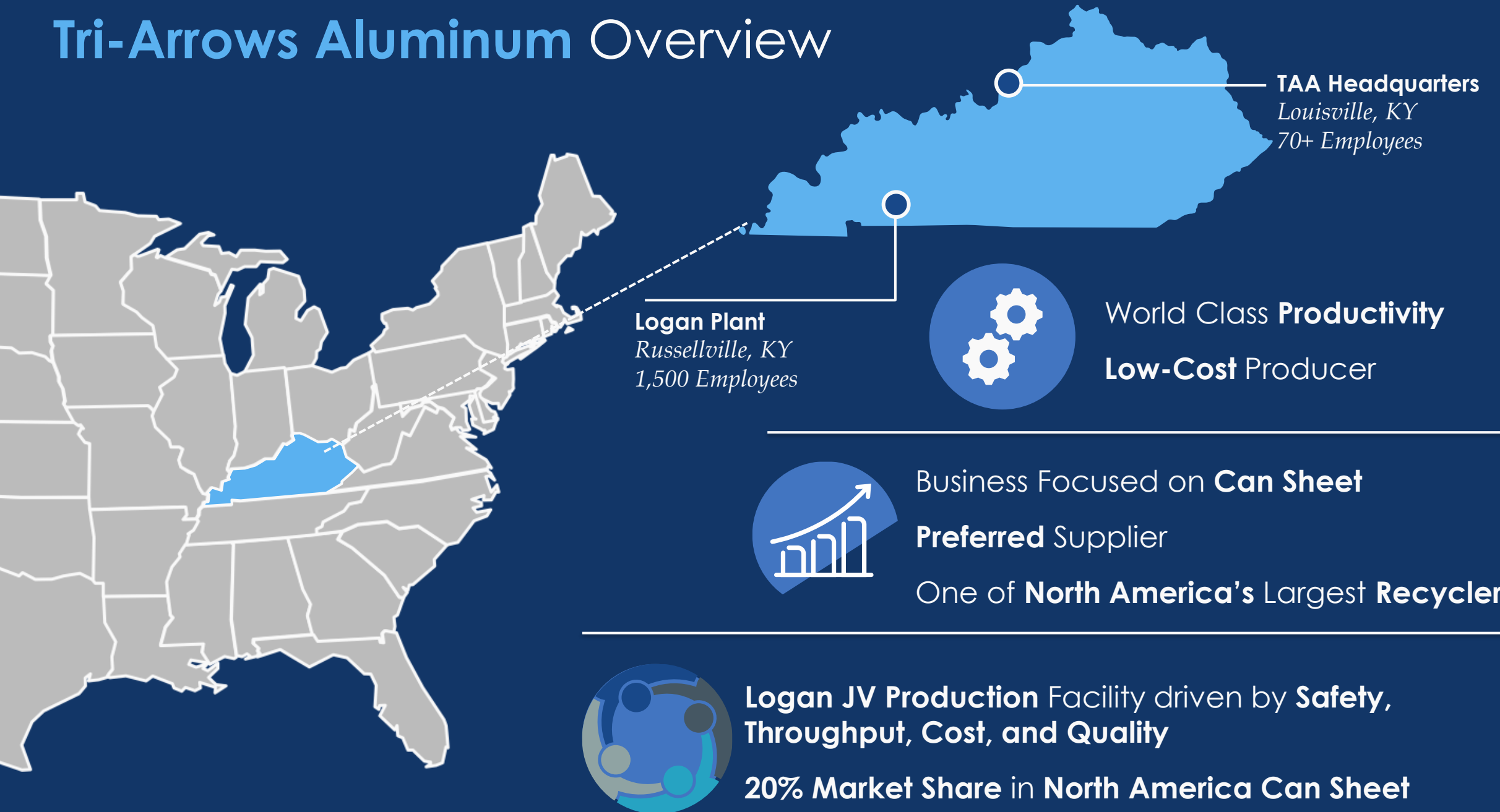
さらに、**自動車、パソコン・モバイル端末、化粧品ケース、インフラ関係でも環境負荷低減を推進中**

TRI-ARROWS ALUMINUM

Strengthening Our Competitive Position

May 29, 2026

Tri-Arrows Aluminum Overview



TAA is Positioned for Long-Term Success

Industry-Leading Low-Cost Producer

“Driving our unit costs lower through increases in productivity and our ability to process advantageous material types.”

Durable Performance

“Reliably meeting our commitments through excellence in execution.”

Investments that Scale Value

“Enhancing the capabilities and capacities that ensure an advantaged competitive position in all market conditions.”

Forward Looking

“Relentless drive to find new ways to create value and deliver steady growth in earnings.”

Big Picture and Landscape

Market

- Trade and tariff dynamics continue to evolve.
- Geo-political risks persist, shifting supply chain priorities.
- Aluminum packaging continues to grow.
- Recycling fundamentals are historically favorable.

Tri-Arrows

- Recent investments are in place to capitalize on current market conditions.
- Production remains sold out through 2028.
- Balance sheet and cash flows are healthy, and we continue to pay down debt.
- Confident in long-term earnings prospects.

Managing Uncertainty

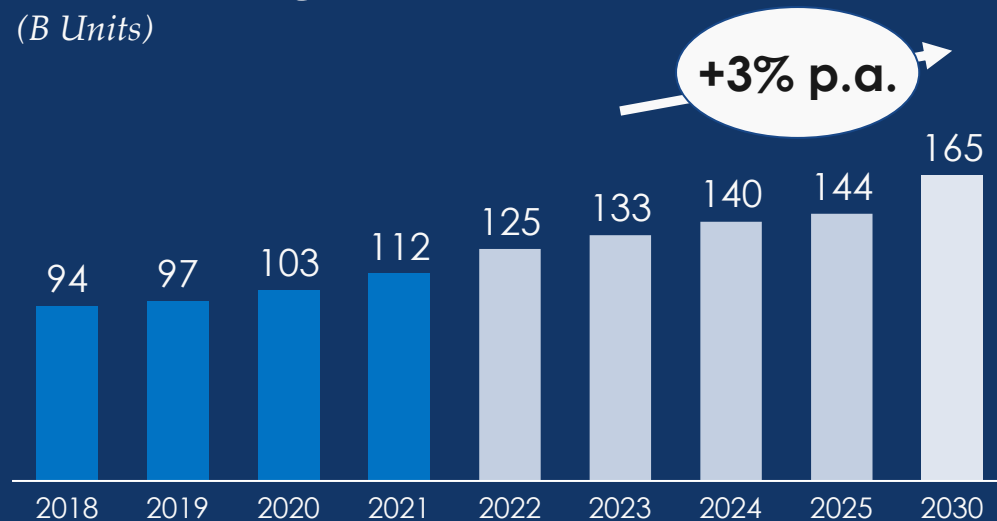
- Pass-through business model.
- Buy, produce, & sell domestically
- Contracts and supply chains are stable.
- No direct sourcing exposure to the Middle East.
- No direct impact on operational performance.
- Strong price risk management



US Can Sheet Demand Remains Strong, Expecting Low Single Digit CAGR Through End of Decade

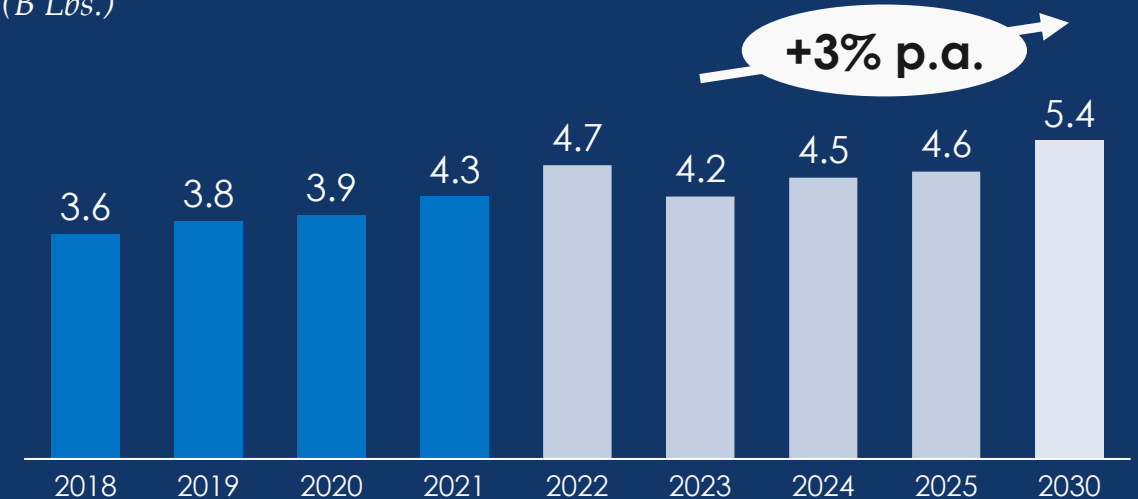
US Beverage Container Sales

(B Units)



US Can Sheet Demand

(B Lbs.)



- **75%** of new beverage launches use aluminum cans.
- Consumers preference for sustainable packaging, convenience & portability.
- Functional advantages for product protection, & brand differentiation.

- US can sheet demand supported by strong consumer tailwinds.
- While competitors are expanding, structural supply remains limited.
- Confidence in durable trade protections.

MTP4

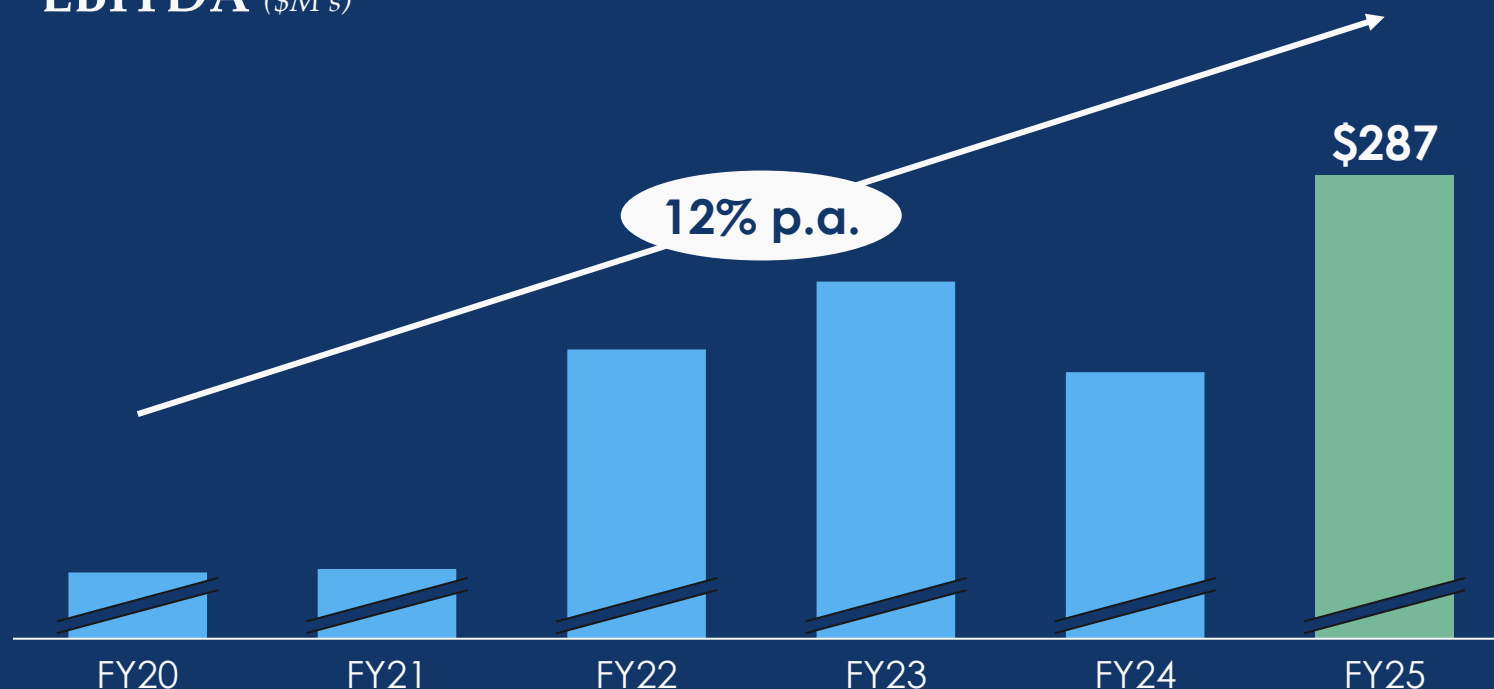
Investments That Are Delivering Performance

May 2026

FY25 Performance Setting Records as TAA scales investments and maximizes opportunities

+12% Earnings Growth Driven by Capital Investments in Capacity and Capability

EBITDA (\$M's)



FY25 Records

Revenue
\$2.7B USD

EBITDA
\$287M USD

Gross Production
956M LBS.

Coil Sales
1,029M LBS.

Scrap Consumption
636M LBS

Long-Term Focus Investments Drive Ingot Supply, Fund Increased Production, Expand Capability



Hot Mill Expansion

~\$145M

Commissioned: Q3-FY25

Upgrade to the hot rolling process that **increases overall capacity** enhances mill equipment and infrastructure



Shred Line Investment

~\$40M

Commissioned: Q4-FY25

Expansion of shredding capability that allows TAA a wider range of **economically advantaged material** inputs.



KAP JV Investment

~\$50M

Commissioned: Q1-FY26

Scrap processing facility using rotary furnaces to process **dross, scrap**, with capability for **molten**.

Gains in Rolling Production Driving TAA's Unit Costs at Logan Lower

Hot Rolling Capacity Gains, Improved Cost/Lb. on Pace to **Break Records in FY26+**

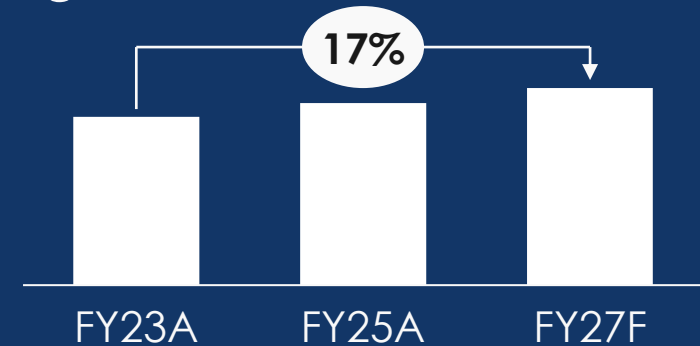
Continued de-bottleneck at Hot Mill

17% Production Increase

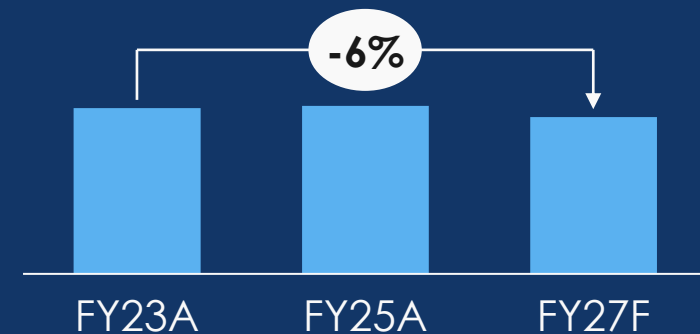
Enables higher, steadier production levels

Lowers cost per lb.

Logan FG Production



Logan Cost/Lb.



Investment in Recycling Capabilities Advantage Our Competitive Position in Materials

Expanded Capacity & Capabilities
Boosts Scrap Inputs +46%

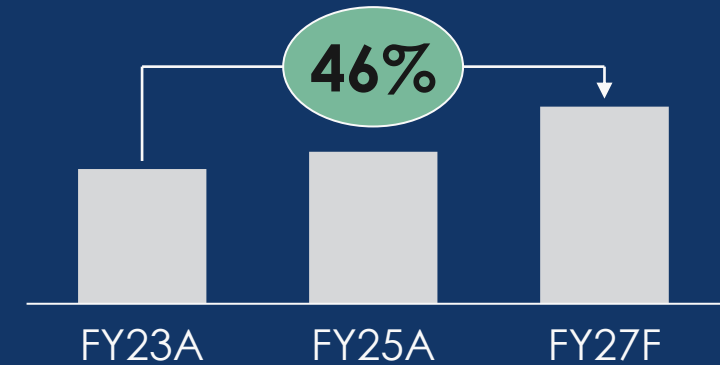
Significant increase in shredding capability

Increased processing capability

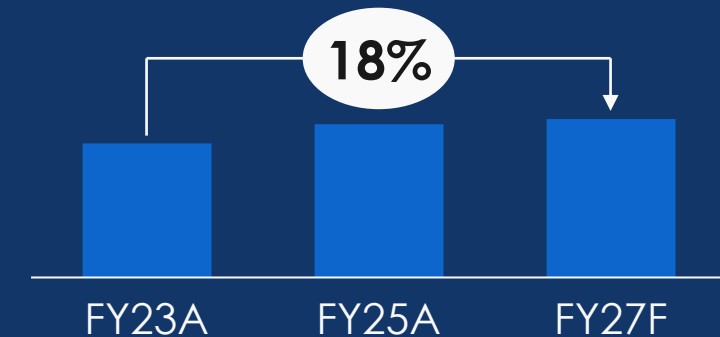
Enhanced flexibility in material sourcing and utilization

More localized material flow improves supply chain efficiency

Scrap Consumption



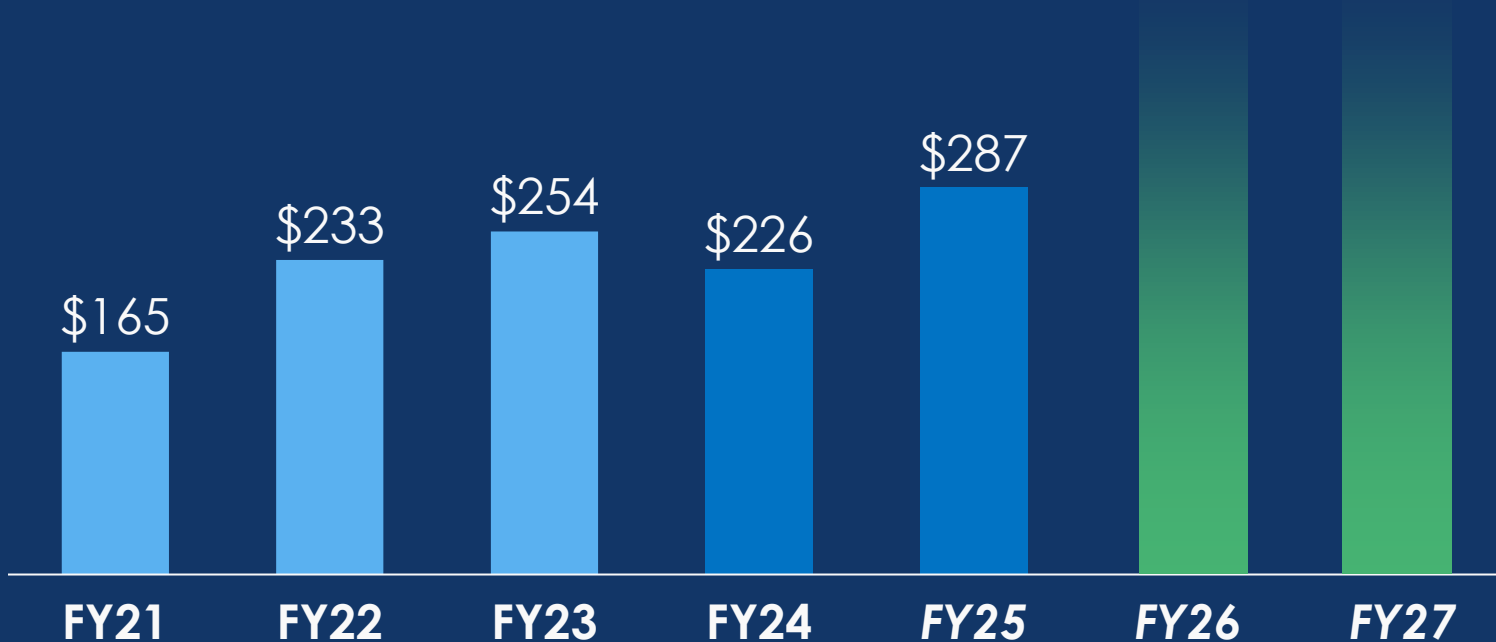
Casting Production



4th Mid-Term Plan Investments Position TAA to Set Performance Records in FY26/27

EBITDA (\$M's)

4th MTP
Position of Strength



FY26+ New Records

While market conditions support amplified earnings, our **strategic investments raise TAA's long-term earnings floor.**

Vision 2030

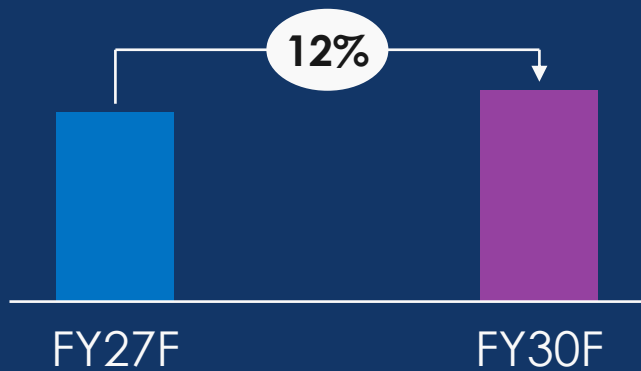
Leveraging MTP4 to Grow Further

May 2026

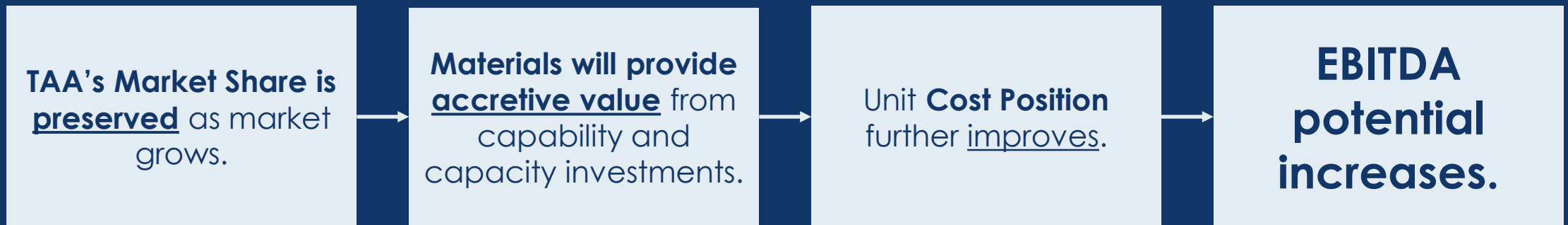
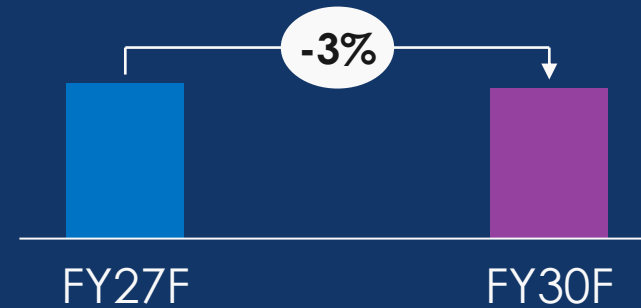
Hot Mill Capacity Expansion of 10%+ Further Improves Our Competitive Position

**+\$130M CapEx Expands Hot Rolling and Downstream Finishing at Logan;
Increased Production & Sales by 2029**

Logan FG Production



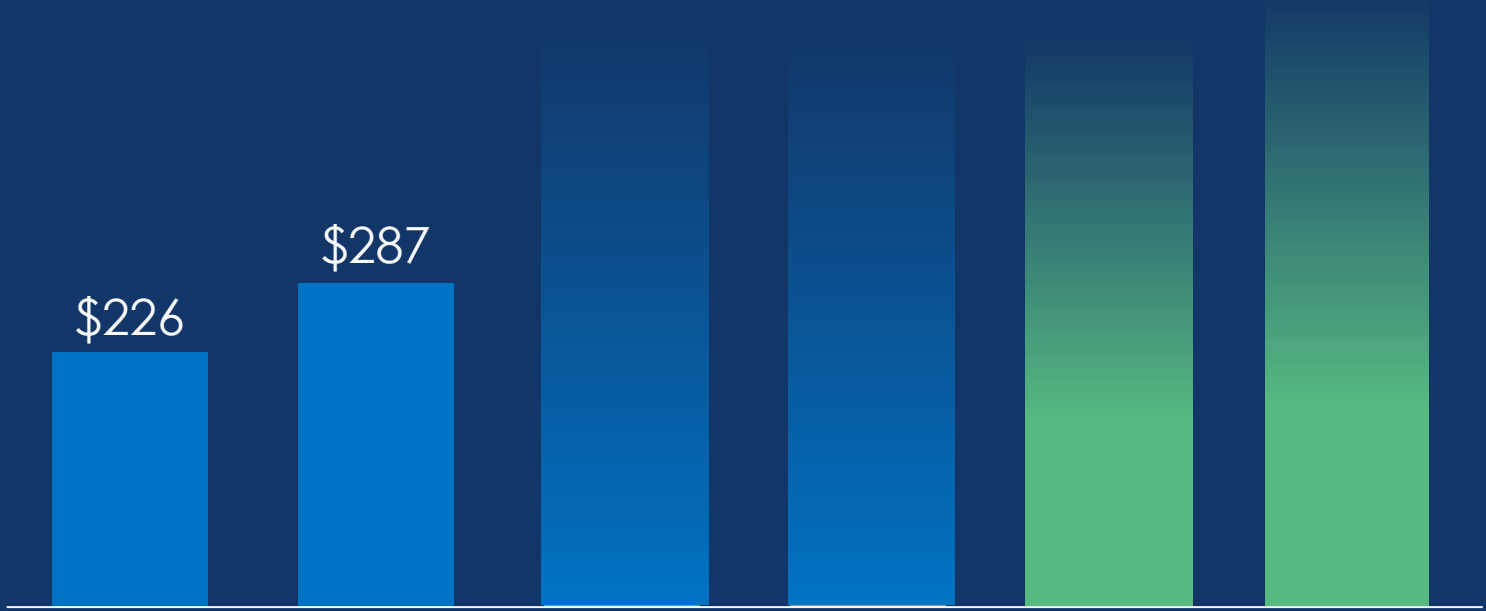
Logan Cost/Lb.



Beyond 4th Mid-Term Plan: Raising Our Long-Term Earnings Base and Leveraging Our Capabilities.

EBITDA (\$M's)

Improved Earnings Potential



Broadening Capabilities and Capacity for Durable Earnings

- TAA maintains a **Position of Strength** as consumer behavior fuels steady, long-term can sheet demand growth.
- Operational gains are driving higher production and lower costs at Logan.
- Focus remains on **raising our earnings floor** through disciplined investment, stable operations, & resilient cash flow

4th MTP +

Closing & Position of Strength

SUMMARY

- 1 The U.S. Can Sheet **market is healthy, growing**, and our customers are looking for us to **expand with them**.
- 2 During the 4th MTP, we expanded our ability to use a **broader range of scrap types**. Further, we have built a manufacturing system for ingot that gives us **flexibility in our operations** and the **capacity to support further growth** in coil production.
- 3 The investments in coil production, coupled with recycling, are **yielding record financial results in favorable market conditions**.
- 4 The next investment in coil production **increases our earnings potential beyond MTP4+** in an evermore durable way.

今後の事業戦略達成に向けた 財務戦略

取締役執行役員 財務本部長

岡田 浩三

UACJ

Aluminum lightens the world
アルミでかなえる軽やかな世界

第4次中計 財務目標に向けての進捗状況

事業利益は順調に推移し、財務指標も改善傾向

【第4次中計における2027年度目標値】

事業利益
600 億円

Adjusted EBITDA*1
1,000 億円

ROE
9%以上

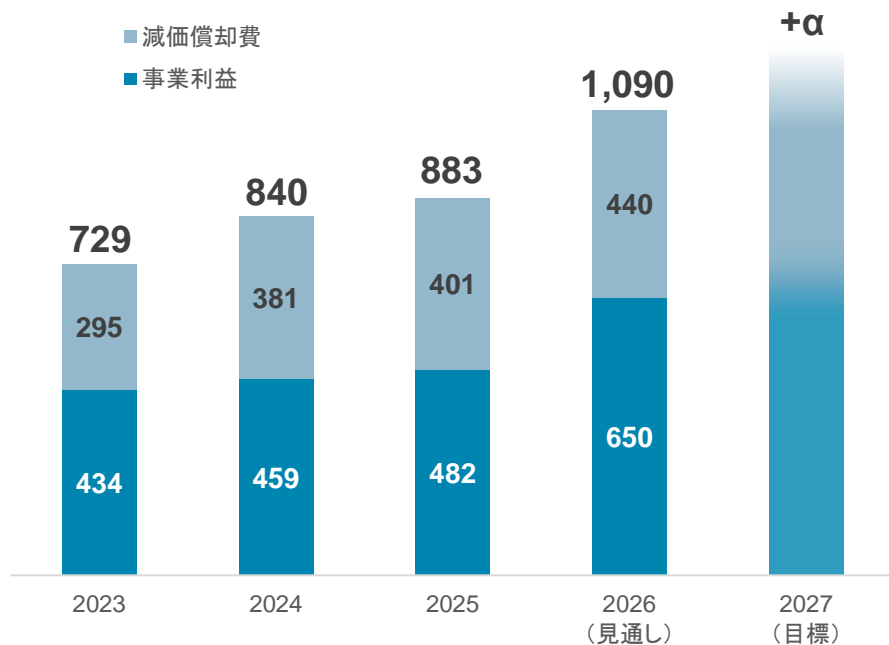
ROIC*2
9%以上

D/Eレシオ*3
1.0倍未満

*1 Adjusted EBITDA : EBITDA - 棚卸資産影響等 *2 ROIC : 税引前事業利益を基に算出 *3 連結D/Eレシオは、有利子負債のうち借入金・社債を基に算出し、また劣後特約付ローンの資本性を考慮

【推移】

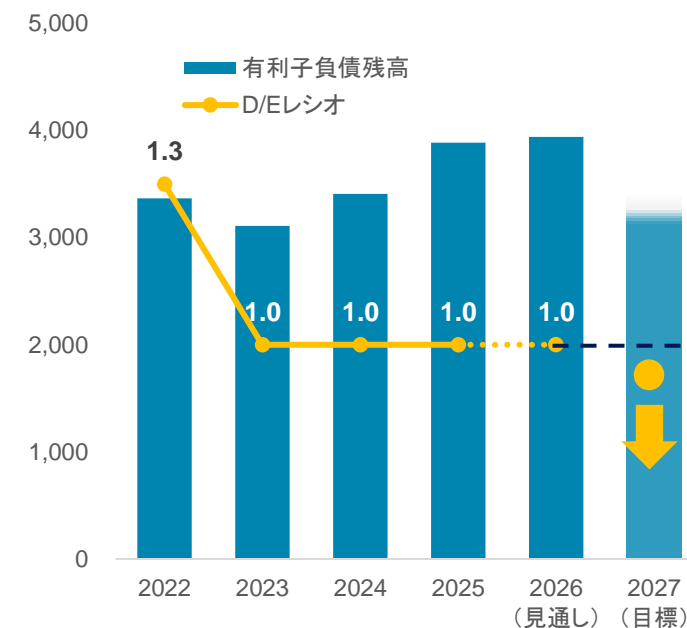
Adjusted EBITDA推移(億円)



ROE、ROIC推移(%)



有利子負債残高(億円)・連結D/Eレシオ(倍)



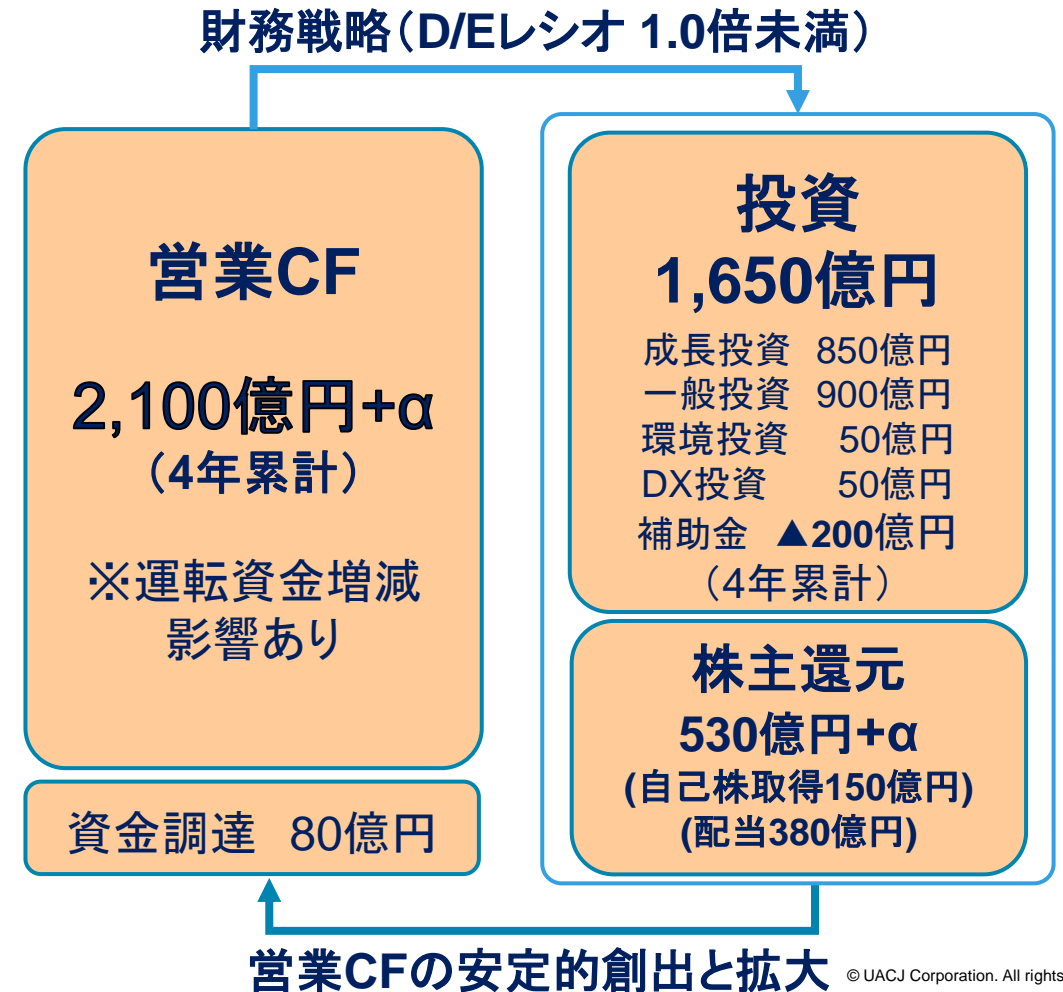
第4次中期経営計画期間中のキャッシュアロケーションの見通し

利益は計画を上回って推移しているが、地金価格高騰の影響により運転資金は増加傾向。
 今後の動向は不透明だが、運転資本削減の取り組みに注力し、計画通りの営業CF創出を目指し、適切なキャッシュ配分を実行する。

第4次中計公表時のキャッシュアロケーションの考え方



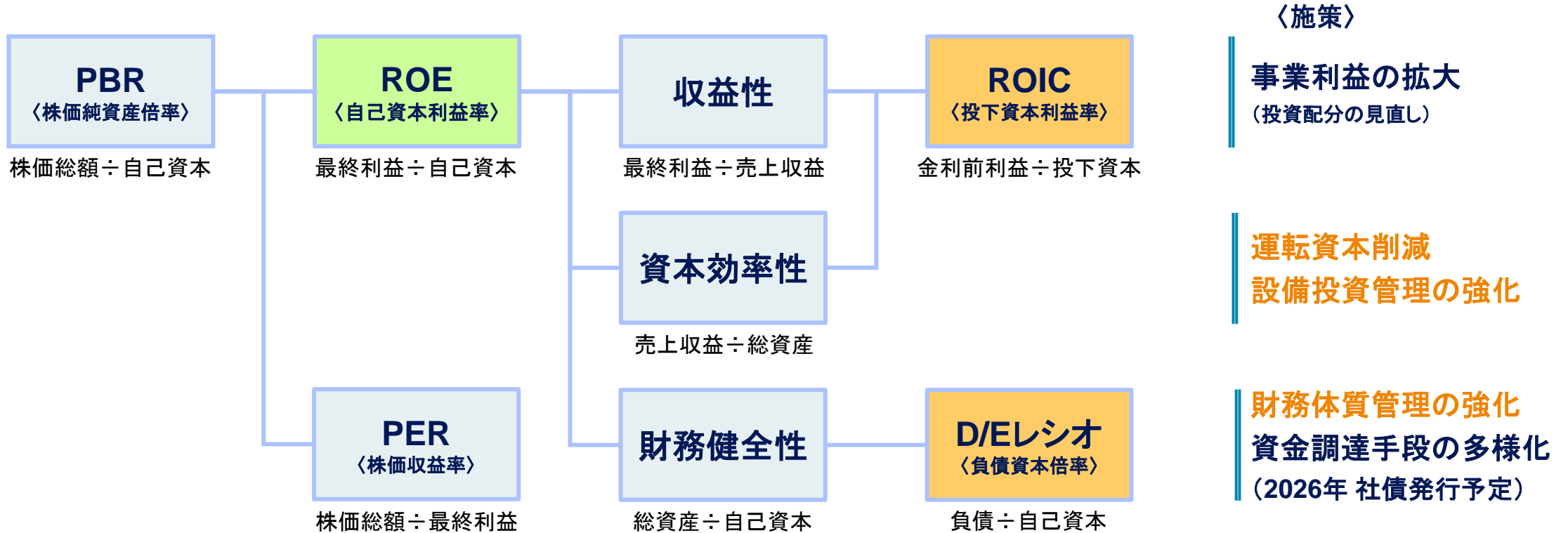
第4次中計後半に向けてのキャッシュアロケーションの考え方



第4次中計後半の重点施策

継続した企業価値向上を支える財務施策を推進

ROE向上に向け、ROICとD/Eレシオ向上に向けた取り組みに注力



投下資本を適切に管理し、ROICの向上を実現

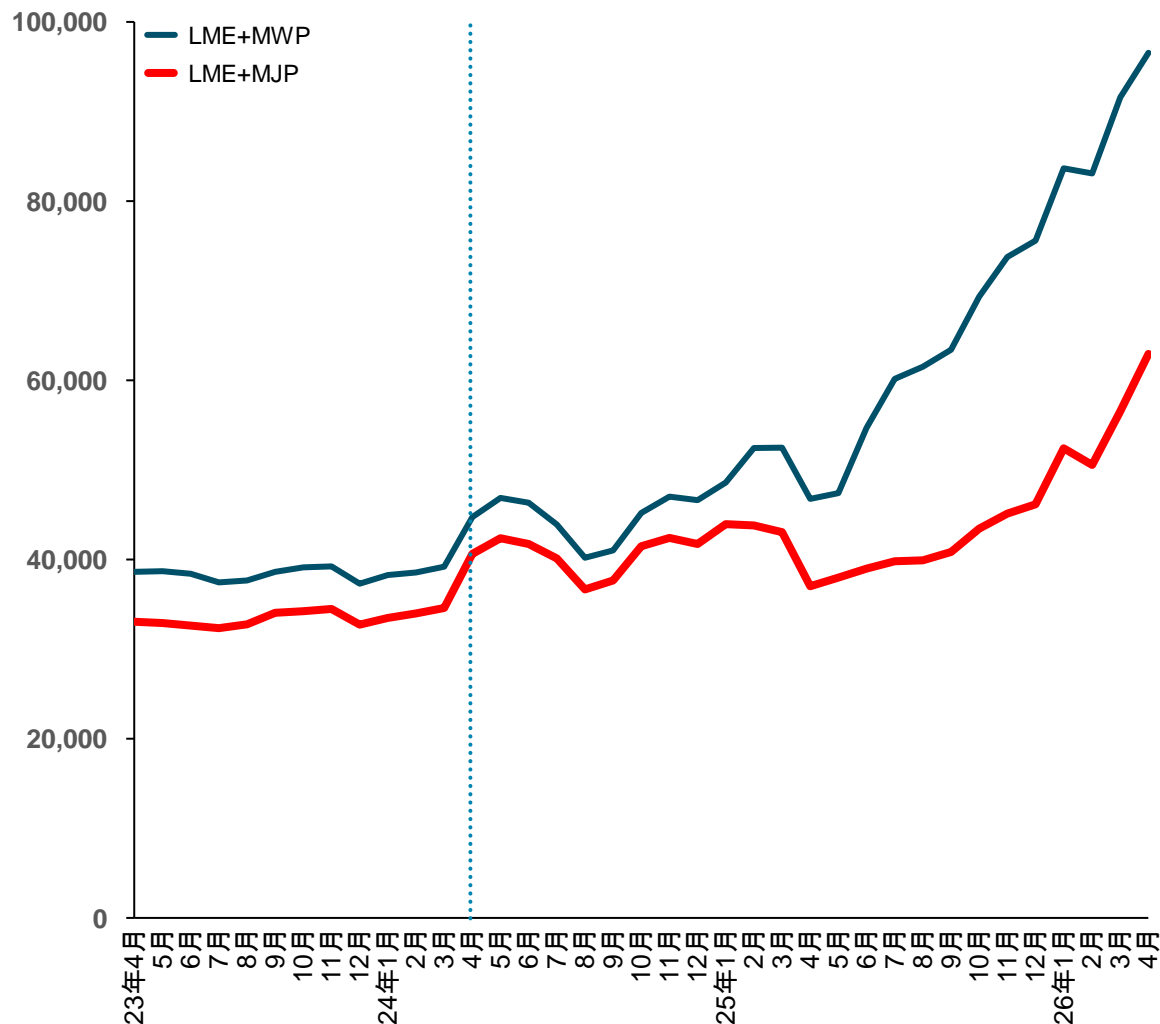
- 設備投資の投資採算性評価を強化し、事業利益の拡大に貢献
- 運転資本の削減により、地金価格変動等の影響を抑え、D/Eレシオの維持、改善を図る

ROIC改善の取り組み【運転資本の削減】

アルミ地金価格高騰等により運転資金は増加傾向

棚卸資産削減の取り組みを進め、運転資金増加を最小限に抑える

地金価格推移(円/kg)



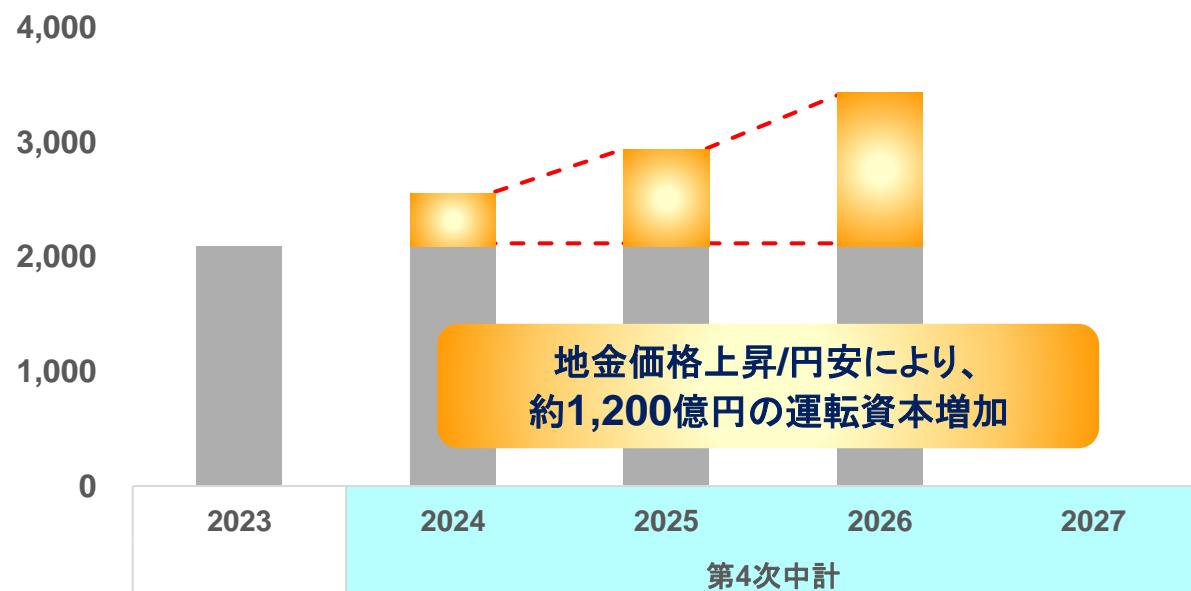
CCC*改善プロジェクトを発足(2025年度~)

全社一丸となって取り組み中。

⇒棚卸資産削減、売掛金の回収条件短縮へ

*CCC キャッシュ・コンバージョン・サイクル

運転資本の推移(億円)



地金価格上昇/円安により、
約1,200億円の運転資本増加

ROIC改善の取り組み【設備投資管理の強化】

投資総額は第4次中計の水準で計画。投資案件審査時の投資採算性評価を強化

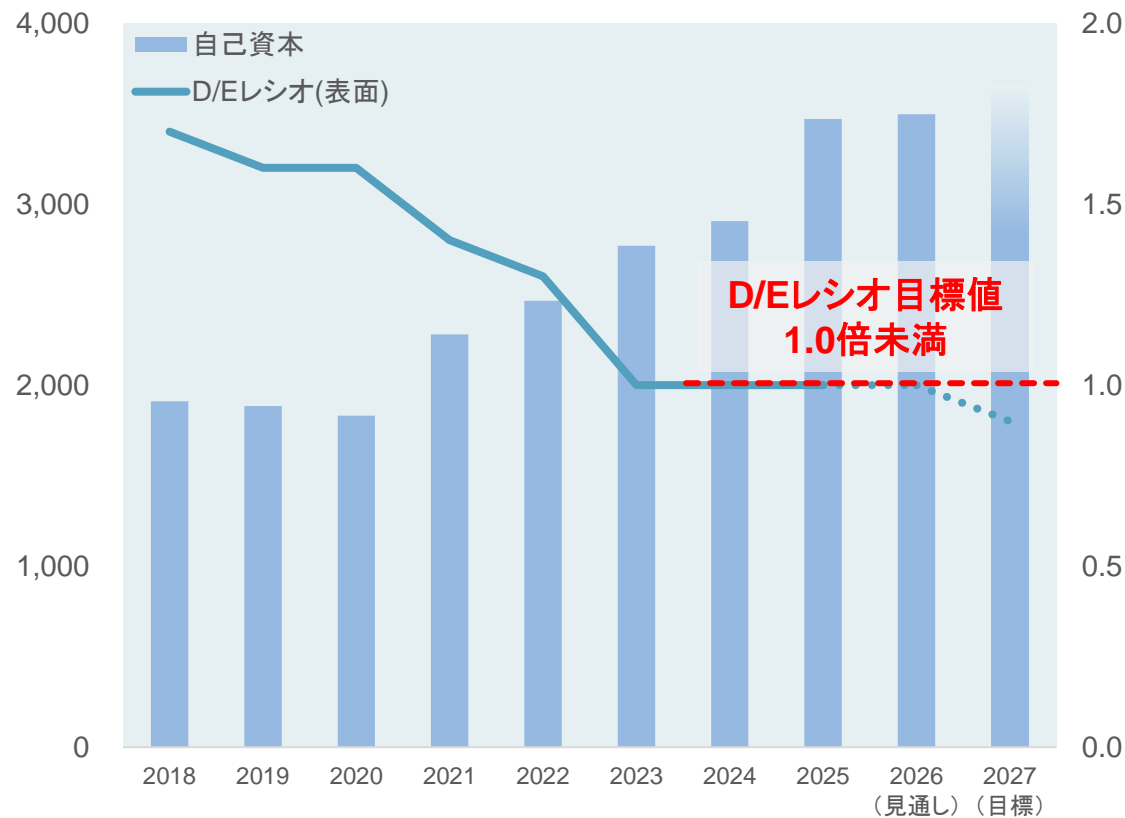
(検収ベース・億円)

	FY24	FY25	FY26 (見通し)	FY24~26 累計	FY24~27 見通し
設備投資	419	527	500	1,446	1,850
一般投資	188	208	300	696	900
戦略投資	231	319	200	750	950
補助金等		△120		△120	△200
設備投資計 (補助金控除後)	-	-	-	1,326	1,650
減価償却費	381	401	440	1,222	1,665

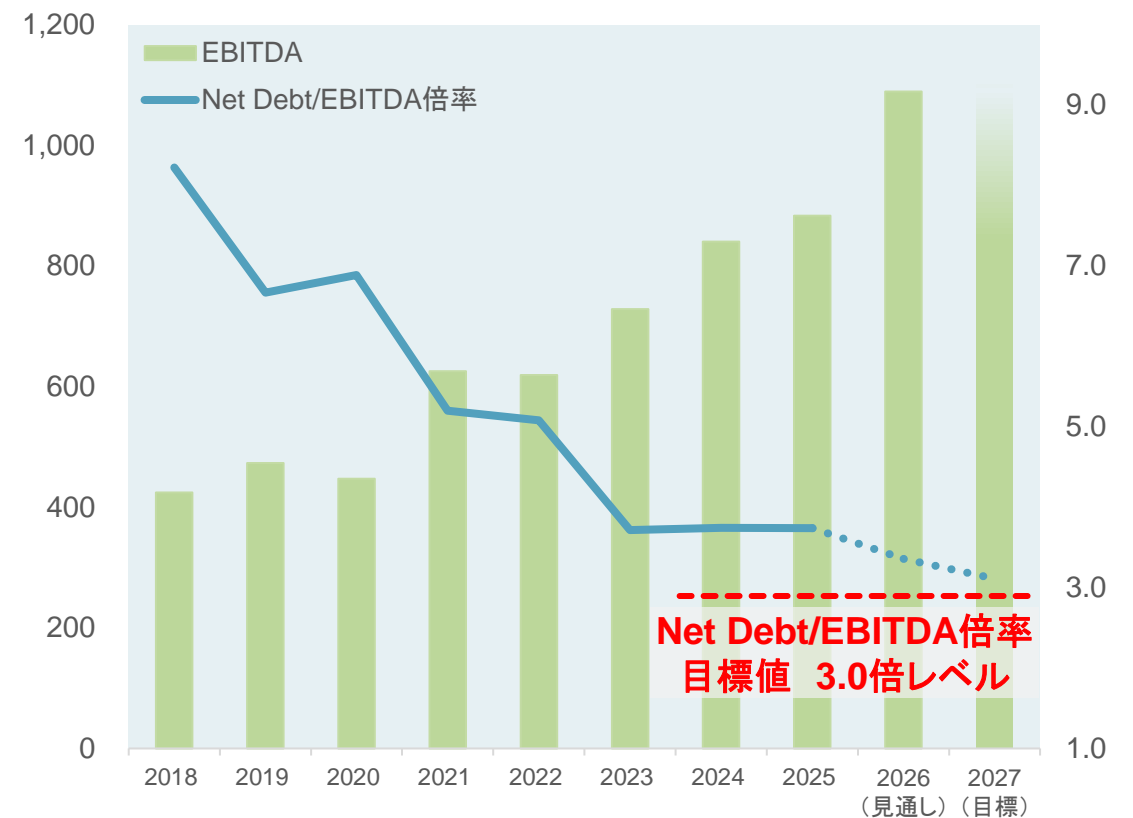
D/Eレシオ改善の取り組み【財務体質管理の強化】

運転資金増加等の環境下であるが、第4次中計の計画通りのD/Eレシオで推移
Net Debt/EBITDA倍率も管理指標に加え、債務償還能力の観点からの管理も強化

D/Eレシオ推移



Net Debt/EBITDA倍率



株主還元方針

2025年度期末配当金を上方修正(前回公表比+10円/株)し、年間配当金を55円/株へ

2026年度年間配当金は58円/株(前年比+3円/株)を計画

株主還元方針 (第4次中期経営計画)

基本方針: 安定的かつ継続的な配当を目指す

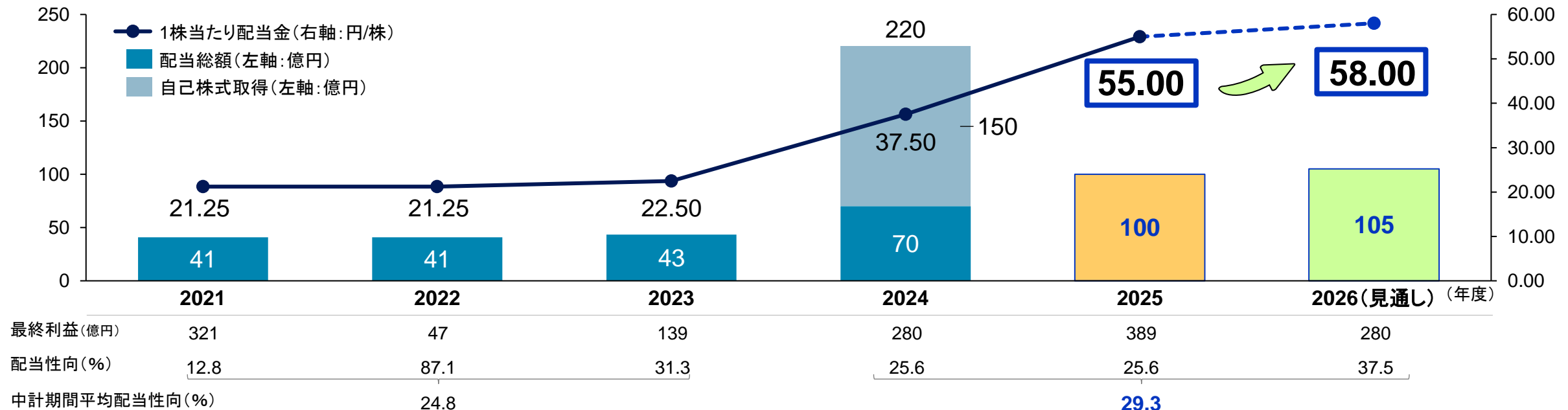
中期計画: 第4次中計(24~27年度)期間中の配当性向は最終利益の30%以上を目指す

2025年度配当予想

年間**55円/株** (中間配当金**20.0円/株**、期末配当金**35.0円/株**) ※期末配当金 2026年2月公表比+10円/株

2026年度配当計画

年間**58円/株** (中間配当金**29.0円/株**、期末配当金**29.0円/株**)



*2022年度以前は日本会計基準、2023年度以降は国際会計基準(IFRS)

資本効率の向上

市場との対話を積極的に実行し、エクイティスプレッドの創出、株式価値向上を実現

企業価値の創出



収益性の向上

- ✓ 価値創造プロセス
- ✓ 事業戦略・成長シナリオ
- ✓ 事業利益 600億円
- ✓ ROIC目標 9%
- ✓ 金利・税マネジメント

成長投資

- ✓ 中期経営計画の成長投資
⇒リサイクル分野への支出
(設備投資、研究開発費)
- ✓ 航空宇宙・防衛分野への投資

企業価値を作り出す源泉(EBITDA)

資本コストの低減



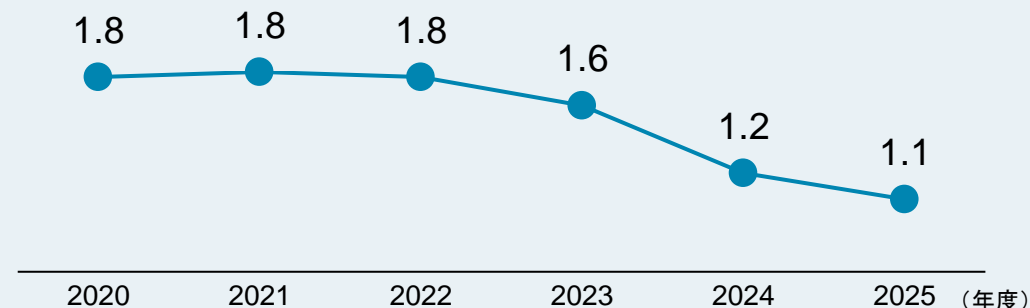
財政状態の安定化

- ✓ バランスシートの最適化の実現
⇒財務健全性
- ✓ 資金調達手段の多様化
- ✓ 効率的な経営資源の活用

株主資本コストへの対応 -β値の改善-

- ✓ 資本市場との対話
- ✓ 情報開示の強化
- ✓ 非財務分野での価値創出

β値推移





Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上収益及び利益等の計画や見通しのうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上収益及び利益等と、この資料に記載されております計画や見通しとは、今後さまざまな要因により大きく異なる場合があります、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。

また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料ならびにIR 関係のお問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

株式会社UACJ IR・広報部

uacj_ir@ml.uacj.co.jp

<http://www.uacj.co.jp>

東証プライム
証券コード

5741